

日本紀標註

卷之十九

和書門				
四三六	二四三	二六	冊	架
號	函	冊	架	冊

內閣文庫			
四三六	二四三	二六	冊
號	函	冊	架
(九十九)			

內閣文庫		
番號	和	43718
冊數	26(19)	
函號	137	99



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



日本紀林注卷之十九

敏田年治謹注

舒城天皇

天皇及月廣繼天皇

天皇及月廣繼天皇

天皇及月廣繼天皇

天皇及月廣繼天皇

天皇及月廣繼天皇

天皇及月廣繼天皇

原本卷首目
本書紀卷第二

日本紀標注卷之十九

十三とあり
息長足日廣額

天皇を惣て後
稱たる御名

みて、真の御名
を、田村皇子と

称せり、此天皇
を後、舒明と

謚奉と、○淳
中倉云々、敏

達天皇を申す
○糠手姫皇女

を、敏達天皇の
御女あり、○葬

禮を、ミハ、フ
りとよめる也

舒明天皇

敦田年治謹注

息長足日廣額天皇

息長足日廣額天皇、淳中倉太珠

敦天皇、孫、彦人大兄、皇子、之子也

母曰糠手姫、皇女、豐御食炊屋姫、

天皇、二十九年、皇太子、豐聰耳尊

薨而、未立皇太子、以三十六年三

○日本紀標注卷之十九

○一

次て本語ふは
べし○蝦夷も
馬子の子あり

月、天皇崩、九月葬禮畢之、嗣位未
定、當是時、蘇我蝦夷臣、爲大臣、獨
欲定嗣位、顧畏群臣、不從、則與阿
倍麻呂臣、議而聚群臣、饗於大臣、
家、食訖、將散、大臣令阿倍臣語群
臣曰、今天皇既崩、無嗣、若急不計
畏有亂乎、今以詎王爲嗣、天皇卧
病之日、詔田村皇子曰、天下大任
本非輒言、爾田村皇子慎以察之

誼諱、景行紀不
も見也、崇神紀
不騷動未止、推
古紀不勿諱言
ふどり、ナリ
トヨキモ、響騷
あり、原本諱を
護不誤り○
阿倍臣も、推古
紀不見也、なる、
阿倍臣摩侶り
異言も、仁賢紀
ふ、尤切し、り
如不注しつ○

不可緩、次詔山背大兄王曰、汝獨
莫誼諱、必從群言、慎以勿違、則是
天皇遺言焉、今誰爲天皇、時群臣
嘿之、無答、亦問之、非答、強且問之、
於是大伴鯨連進曰、既從天皇遺
命耳、更不可待群言、阿倍臣則問
曰、何謂也、開其意、對曰、天皇曷思
歟、詔田村皇子曰、天下大任也、不
可緩、因此而言、皇位既定、誰人異

○日本紀標注卷之十九

米女臣、姓氏録
子、神饒速日命
六世孫、伊香我
色雄命之後也
天武十三年、紀
小、米女臣賜姓
曰朝臣、高向
臣、姓氏録、高
向朝臣、武内宿
祿六世孫、猪子
臣之後也、天武
十三年、紀、高
向臣賜姓曰朝
臣、○中臣連、弥
氣也、系、因、鎌
足公の父、御
食子、り、是、り
○蘇我倉摩呂、

言、時、米女、臣摩禮志、高向、臣宇摩
中臣、連彌氣、難波、吉士、身刺、四臣
曰、隨、大伴、連、言、更、無、異、許、勢、臣大
摩呂、佐伯、連、東人、紀、臣塩手、三人
進、曰、山背、大兄、王、是、宜、爲、天皇、唯
蘇我、倉摩呂、臣
雄當、獨、曰、臣也、當
時、不、得、便、言、更、思、之、後、啓、爰、大臣
知、群、臣、不、和、而、不、能、成、事、退、之、先
是、大臣、獨、問、境部、摩理勢、臣曰、今

公卿補任、蘇我
山田石河麻呂
の傳子、馬子大
臣之孫、雄正子
臣之子也、り、
蘇我境部臣、堀
三國王、詳、あら
ず、○櫻井臣、姓
氏録、子、櫻井朝
臣、蘇我石川、宿
祿四世孫、稻目
宿祿、大臣之後
也、天武十三年、
紀、小、櫻井臣賜
姓、曰、朝臣、○叔
父、平氏太子傳
子、大兄之母、馬
子之女とあり、

天皇崩、無、嗣、誰、爲、天皇、對、曰、舉、山
背、大兄、爲、天皇、
○境部摩理勢臣、平氏太子傳子、大臣叔父
是、時、山背、大兄、居、於、斑鳩、宮、漏、聽
是、議、即、遣、三國、王、櫻井、臣和慈古
二人、密、謂、大臣、曰、傳、聞、之、叔父、以
田村、皇子、欲、爲、天皇、我、聞、此、言、立
思、矣、居、思、矣、未、得、其、理、願、分、明、欲
知、叔父、之、意、於、是、大臣、得、山背、大

か、とむ、蝦夷
 大兄、王の九
 め、も、母方の
 叔父、ふて、即場
 字、子當る、汝と、
 推古三十二年、
 紀、注せ、は、
 如し、○曲、日本、
 靈異記、み、委曲
 を、ツ波比良計
 苦、と注し、万葉
 三、み、曲、曲、ニ、
 どり、り、是、え、マ
 の、バ、子、轉、なる
 みて、詳、と、本、
 依、欽、明、紀、子、
 一、を、よ、め、

兄之告而、不能獨對、則喚阿倍臣
 中臣、連、紀、臣、河邊、臣、高向、臣、米女、
 臣、大伴、連、許勢、臣等、仍曲舉山背、
 大兄、之語、既而便且謂大夫等曰、
 汝大夫等、共詣於斑鳩宮、當啓山
 背、大兄、王曰、賤臣何之獨輒定嗣、
 位、唯舉天皇之遺詔、以告于群臣、
 群臣並言、如遺言、田村皇子、自當
 嗣位、更詎異言、是群卿言也、特非

山背大兄王、原
 本兄王の二字
 を脱せ、例、
 よ、り、て、補、ふ

臣心、但雖有臣私意、而惶之不得
 傳啓、乃面日親啓焉、爰群大夫等、
 受大臣之言、共詣于斑鳩宮、使三
 國、王、櫻井、臣、以大臣之辭、啓於山
 背、大兄、王、時、大兄、王、使傳問群大
 夫等曰、天皇遺詔、奈之何、對曰、臣
 等不知其深、唯得大臣語狀、稱天
 皇、卧病之日、詔田村皇子曰、非輕
 輒言來國政、是以爾田村皇子、慎

一介之使也、獨使あり、使下遣を原本に遺ひ誤り

以言之不可緩、次詔大兄、王曰、汝肝雅而勿誼言、必宜從群言、是乃近侍諸女王、及采女等悉知之、且大王所察、於是大兄、王且令問之曰、是遺詔也、專誰人聆焉、答曰、臣等不知其密、既而更亦令告群大夫等曰、愛之叔父勞思非一介之使、遣重臣等而教覺、是大恩也、然今群卿所導、天皇遺命者、小小違

禁省を宮中より文選西征賦に、禁省勸、為茂草云々、李善が漢書の注を引て、本名禁中と注せり、○閣門、宮衛令の義解に、衛門所守謂之宮門、兵衛所守謂之閣門也、江次第七日節會、兼束條、閣門謂長樂永安門也、字書に内中、小門と注せり

○乘隈、山城国久世郡に、仁徳紀に極大溝於山背、乘隈縣とあり、地小由あは姓あり、天武十二年、紀に乘隈首賜姓曰連、○大殿、万葉一に、大宮者此間等

我之所聆、吾聞天皇卧病、而馳上之侍于門下、時中臣連彌氣、自禁省出之曰、天皇之命以喚之、則參進向于閣門、亦乘隈采女黑女迎於庭中、引入大殿、於是近習者、栗下女王為首、女孺鮪女等八人、并數十人、侍於天皇之側、且田村皇子在焉

雖聞大殿者此間等雖云同二子大殿乎振放見乍鶉成伊波比廻○栗下女王父
祖詳ふらば○為首後宮職員令ふ尚侍をナイシノカミとよの目む是ふ當る
べし○女孺後宮職員令内侍司ふ女孺一百人藏司十人書司六人藥司四人兵
司六人關司十人殿司六人掃司六人といふ是を日中行事ふのすと記せり女
孺ふて司中の女孺を知らし此女孺より采女ふも補
る例類兼國史四十淳和天皇天長七年條ふ見返たり

時天皇沈病不能觀我乃栗下女
王奏曰所喚山背大兄王參赴即
天皇起臨之詔曰朕以寡薄久勞
大業今曆運將終以病不可諱故
汝本為朕之心腹愛寵之情不可
為比其國家大基是非朕世自本

豐浦寺續紀卅
一の童謡ふ葛
城寺乃前在也
豐浦寺乃西在
也云々大和志
添下郡條ふ豐

勢之汝雖肝雅慎以言乃當時侍
之近習者悉知焉故我蒙是大恩
而一則以懼一則以悲踊躍歡喜
不知所如仍以為社稷宗廟重事
也我眇少以不賢何敢當焉當是
時思欲語叔父及群卿等然未有
可導之時於今非言耳吾曾將訊
叔父之病向京而居豐浦寺是日
天皇遣八口采女鮪女詔之曰為

浦寺初名、向原寺一名建興寺、舊在高市郡、無名抄、宮内卿有賢朝臣、時の殿上人七八人伴ふいて、大和国りづらきの方へ、遊びふゆまじたる所、其時、荒れたたふの大きき、やうくしきが見せりとむ、あやしめて、其名を逢ふ人毎に問はれど、去れる人もを尋りたり、かゝる問ひ、去との外、いん白き翁、ひとり、はとえたり、是みしむやう、何れむと尋ねられむ、是をわとらちの寺と、ぞ申といふ云々、此こと古今著聞集六ふも記せり。○八口、姓氏録、小、箭口、朝臣、宗我、石川、宿禰、四世、孫、稻目、宿禰、之後也、持統紀、小、直廣、肆八口、朝臣、音、檀、續、紀、廿五、子、女、孺、箭口、朝臣、真、第、ふと見ゆ、三代、實、録、卅二、子、從、五、位、下、石、川、朝、臣、木、村、正、六、位、上、箭、口、朝、臣、岑、業、改、石、川、箭、口、並、賜、宗、岳、朝、臣、木、村、言、始、祖、大、臣、武、内、宿、禰、男、宗、我、石、川、生、於、河、内、国、石、川、郡、別、業、故、以、石、川、為、名、賜、宗、我、大

汝イマシガ叔父大臣、常タマニ為汝ガ愁言、百歲之ウレヒテマフス、後嗣位非當、汝乎、故慎テ以自愛ツトメヨ矣、今ホシマヤ既ニ分明有是事、何疑也、然我豈シ餐ニ天下、唯アズサク顯キ、シコトヲ聆事耳、則天神地祇共ニ證之、是以冀正、欲知天皇之遺勅、

家為居、因賜姓宗我、宿禰、云々、○嚴、取、中、事、も、字、の、如、し、台、記、別、記、康、治、大、嘗、會、中、臣、壽、詞、み、本、末、不、傾、茂、槍、乃、中、執、持、豆、奉、仕、曾、云、々、延、喜、奏、覽、大、中、臣、本、系、帳、小、皇、御、孫、之、御、中、執、持、伊、賀、志、禰、不、傾、本、末、中、良、布、留、人、稱、之、中、臣、者、云、々、初、中、執、持、と、と、神、と、君、と、の、中、を、政、お、つ

亦大臣所遣群卿者、從來如嚴イカシ、○嚴、取、中、事、も、字、の、如、し、台、記、別、記、康、治、大、嘗、會、中、臣、壽、詞、み、本、末、不、傾、茂、槍、乃、中、執、持、豆、奉、仕、曾、云、々、延、喜、奏、覽、大、中、臣、本、系、帳、小、皇、御、孫、之、御、中、執、持、伊、賀、志、禰、不、傾、本、末、中、良、布、留、人、稱、之、中、臣、者、云、々、初、中、執、持、と、と、神、と、君、と、の、中、を、政、お、つ嚴イカシ、取中事而奏請人等、○嚴、取、中、事、も、字、の、如、し、台、記、別、記、康、治、大、嘗、會、中、臣、壽、詞、み、本、末、不、傾、茂、槍、乃、中、執、持、豆、奉、仕、曾、云、々、延、喜、奏、覽、大、中、臣、本、系、帳、小、皇、御、孫、之、御、中、執、持、伊、賀、志、禰、不、傾、本、末、中、良、布、留、人、稱、之、中、臣、者、云、々、初、中、執、持、と、と、神、と、君、と、の、中、を、政、お、つ也、故能宜自叔父、既而泊瀬仲王、○嚴、取、中、事、も、字、の、如、し、台、記、別、記、康、治、大、嘗、會、中、臣、壽、詞、み、本、末、不、傾、茂、槍、乃、中、執、持、豆、奉、仕、曾、云、々、延、喜、奏、覽、大、中、臣、本、系、帳、小、皇、御、孫、之、御、中、執、持、伊、賀、志、禰、不、傾、本、末、中、良、布、留、人、稱、之、中、臣、者、云、々、初、中、執、持、と、と、神、と、君、と、の、中、を、政、お、つ別喚中臣連、河邊臣、謂之曰、我等、○嚴、取、中、事、も、字、の、如、し、台、記、別、記、康、治、大、嘗、會、中、臣、壽、詞、み、本、末、不、傾、茂、槍、乃、中、執、持、豆、奉、仕、曾、云、々、延、喜、奏、覽、大、中、臣、本、系、帳、小、皇、御、孫、之、御、中、執、持、伊、賀、志、禰、不、傾、本、末、中、良、布、留、人、稱、之、中、臣、者、云、々、初、中、執、持、と、と、神、と、君、と、の、中、を、政、お、つ父子、並自蘇我出之、天下所知、是、○嚴、取、中、事、も、字、の、如、し、台、記、別、記、康、治、大、嘗、會、中、臣、壽、詞、み、本、末、不、傾、茂、槍、乃、中、執、持、豆、奉、仕、曾、云、々、延、喜、奏、覽、大、中、臣、本、系、帳、小、皇、御、孫、之、御、中、執、持、伊、賀、志、禰、不、傾、本、末、中、良、布、留、人、稱、之、中、臣、者、云、々、初、中、執、持、と、と、神、と、君、と、の、中、を、政、お、つ以如高山、恃之、願嗣位、勿輒言、則、○嚴、取、中、事、も、字、の、如、し、台、記、別、記、康、治、大、嘗、會、中、臣、壽、詞、み、本、末、不、傾、茂、槍、乃、中、執、持、豆、奉、仕、曾、云、々、延、喜、奏、覽、大、中、臣、本、系、帳、小、皇、御、孫、之、御、中、執、持、伊、賀、志、禰、不、傾、本、末、中、良、布、留、人、稱、之、中、臣、者、云、々、初、中、執、持、と、と、神、と、君、と、の、中、を、政、お、つ令三國王、櫻井臣、副群卿而遣之、○嚴、取、中、事、も、字、の、如、し、台、記、別、記、康、治、大、嘗、會、中、臣、壽、詞、み、本、末、不、傾、茂、槍、乃、中、執、持、豆、奉、仕、曾、云、々、延、喜、奏、覽、大、中、臣、本、系、帳、小、皇、御、孫、之、御、中、執、持、伊、賀、志、禰、不、傾、本、末、中、良、布、留、人、稱、之、中、臣、者、云、々、初、中、執、持、と、と、神、と、君、と、の、中、を、政、お、つ曰、欲聞還言、時大臣遣紀臣大伴、○嚴、取、中、事、も、字、の、如、し、台、記、別、記、康、治、大、嘗、會、中、臣、壽、詞、み、本、末、不、傾、茂、槍、乃、中、執、持、豆、奉、仕、曾、云、々、延、喜、奏、覽、大、中、臣、本、系、帳、小、皇、御、孫、之、御、中、執、持、伊、賀、志、禰、不、傾、本、末、中、良、布、留、人、稱、之、中、臣、者、云、々、初、中、執、持、と、と、神、と、君、と、の、中、を、政、お、つ連、謂三國王、櫻井臣曰、先日言訖、

○日本紀標注卷之十九

○七

を云、○泊瀬仲
王詳ふらに、按
ふ彦人大兄皇
子の御子ふ仲
津王りて、敏
達天皇の御孫
あり、爰ふ我等
父子、並自蘇我
出之とりて
孰とを指せば
ふや○小墾田
臣、姓氏録ふ小
治田、朝臣、武内、
宿禰、五世孫、宿
目宿禰之後也、
天武十三年、紀
ふ、小墾田、臣、賜
姓曰朝臣○磯

夏無異矣、然臣敢之輕誰王也、重
誰王也、於是數日之後、山背大兄、
亦遣櫻井臣、告大臣曰、先日之事、
陳聞耳、寧違叔父哉、是日大臣病
動、以不能面言於櫻井臣、明日大
臣喚櫻井臣、即遣阿倍臣、中臣、連、
河邊臣、小墾田臣、大伴連、啓山背、
大兄言、自磯城嶋宮御宇天皇之
世及近世者、群卿皆賢哲也、唯今

城嶋宮也、欽明
天皇を申

臣不賢而遇當乏人時、誤居群臣
上耳、是以不得定基、然是事重也
不能傳導、故老臣雖勞、面啓之、其
唯不誤遺、勅者也、非臣私意、既而
大臣傳阿倍臣、中臣、連、夏問境部
臣曰、誰王為天皇、對曰、先是、大臣、
親問之日、僕啓既訖之、今何夏亦
傳以告耶、乃大忿而起行之、適是
時、蘇我氏、諸族等、悉集為嶋大臣、

摩理勢也、境部臣の名あり○田家、紀中別業、又田宅をよめ、谷川氏て産業の處を、云、云、○身狹君、原本狹身、誤、通證及集解、改、たる、從、此、姓、を、雄略紀、不、注、せ、○錦織首也、敏達紀、欽明紀等、見、せ、たり、○干支、仁德紀、不、注、せ、○有取、隙、不、て、心、の

造墓而次于墓所、爰摩理勢、臣、壞墓所之廬、退蘇我、田家而不仕、時大臣、愠之、遣身狹君、勝牛、錦織首、赤猪而誨曰、吾知汝言之非、以干支之義、不得害、唯他非汝、是我必忤他、從汝、若他、是汝、非、我當乘汝、從他、是以汝遂有、不從者、我與汝有瑕、則國亦亂、然乃後、生言之、吾二人破國也、是後、葉之惡名焉、汝

遇ざるを云、源氏床夏ふ、りて、べ、て、へ、と、よ、き、かん、ふ、り、の、昔、よ、て、さ、す、が、み、む、は、り、を、り、る、云、々、○泊瀬王、も、上、小、泊瀬、仲、王、と、り、ま、

慎以勿起逆心、然猶不從而遂赴于斑鳩、住於泊瀬、王宮、於是大臣益怒、乃遣群卿、請于山背、大兄曰、頃者摩理勢、違臣、匿於泊瀬、王宮、願得摩理勢、欲推其所由、爰大兄、王答曰、摩理勢、素聖、皇所好、而暫來耳、豈違叔父之情耶、願勿瑕、則謂摩理勢曰、汝不忘先王之恩、而來甚愛矣、然其因汝一人、而天下

聖皇也、先帝を申

臨没の没を、原
本設不誤り、
通證ふ改たる
み従ふ○諸惡
云々の二句も
増一阿舍經の
語みして、諸を
衆み作とり

應亂亦先王臨没謂諸子等曰諸
惡莫作諸善奉行余承斯言以為
永戒是以雖有私情忍以無怨復
我不能違叔父願自今以後勿憚
改意從群而无退是時大夫等且
誨摩理勢臣之曰不可違大兄王
之命於是摩理勢臣進無所歸乃
泣哭變還之居於家十餘日泊瀨
王忽發病薨爰摩理勢臣曰我生

五舍式の忌詞
み寺の異名み
云るを思へむ
此項より寺を
む瓦みて葺し
みや○于泥備
柳摩え畝傍山
みて大和国高
市郡みつる○

之誰恃矣大臣將殺境部臣而興
兵遣之境部臣聞軍至率仲子阿
椰出於門坐胡床而待時軍至乃
令來目物部伊區比以絞之父子
共死乃埋同處唯兄子毛津逃匿
于尼寺瓦舍即姦一二尼於是
尼嫉妬令顯圍寺將捕乃出之入
畝傍山因以探山毛津走無所入
刺頸而死山中時人歌曰于泥備

虚多智于須家
 若木立雖薄
 あり○多能弥
 介茂也將憑不
 て茂也古昔以
 て書りて景行
 紀小、兼雲此云茂羅玖毛と有り然不句末不祁牟と重云るも如何と云む久拾
 遺集不、又ふれてふはとて誰かへてむけむ、くるしきもの、去らむや
 りむ、とあはし同格あり○氣菟能和區吳能も、毛津若子之あり○虚茂邏勢利
 祁牟も、隱在りむを、延云、るる、一首の意也、畝傍山木立も薄くして、隱也、
 て才を、顯るべしとも去らで、為む
 すべ不知、憑いふも、あり
 丙午四月○幽
 顯神代紀不、治
 幽事と有りを、
 一不、治神事と
 書りれむ、幽也
 神あり、顯も幽

椰摩、虚多智于須家、若木立雖薄、多能弥介、
 茂、氣菟能和區吳能、虚茂邏勢利、
 祁牟

元年春正月、癸卯朔丙午、大臣及
 群卿、共以天皇之璽印、獻於田村、
 皇子、則辭之曰、宗廟重事矣、寡人

不賢、何敢當乎、群臣伏固請曰、大
 王先朝鍾愛、幽顯屬心、宜纂皇統、
 光臨億兆、即日即天皇位、夏四月
 辛未朔、遣田部連、關於掖玖、是年
 也太歲己丑

二年春正月、丁卯朔戊寅、立寶皇
 女爲皇后、后生二男、一女、一曰葛
 城皇子、近江大津宮、二曰間人皇

間人皇女也、乳母の姓小よじ、
 蘇我、嶋、大臣、女、法提郎媛、生、古人、
 皇子、天武紀、大海人、小作、又娶吉備國、蚊屋、米
 女、生、蚊屋、皇子、
 云、と、お、も、人、字、を、略、り、然、も、津、守、連、大、海、布、勢、朝、臣、大、海、尾、張、宿、祢、大、海、尾、張、大、
 海、媛、米、女、大、海、ふ、じ、の、如、し、○注、提、郎、媛、名、義、考、え、げ、○大、兄、皇、子、皇、極、紀、ふ、古、人、
 大、兄、皇、子、と、称、し、孝、德、紀、ふ、古、人、大、市、皇、子、と、
 称、せ、る、○蚊、屋、和、名、抄、ふ、備、中、国、郡、名、賀、夜、
 享、子、枝、原、本、宴、字、ふ、音、晏、と、傍、
 注、り、る、○丁、酉、
 五、日、○唐、国、原、本、大、唐、小、作、と、
 又、例、を、以、て、改、
 德、率、武、德、共、朝、貢、秋、八、月、癸、巳、朔、
 使、若、德、百、濟、大、使、恩、率、素、子、小、使、
 三、月、丙、寅、朔、高、麗、大、使、宴、子、枝、小、
 德、率、武、德、共、朝、貢、秋、八、月、癸、巳、朔、

〇庚子八日
 〇丙寅四日
 〇癸卯十二日
 〇三韓
 〇義慈、東、国、通、
 〇百、濟、義、慈、王、
 丁酉、以、大、仁、大、上、君、三、田、耜、大、仁、
 藥、師、惠、日、遣、於、唐、國、庚、子、饗、高、麗、
 百、濟、客、於、朝、九、月、癸、亥、朔、丙、寅、高、
 麗、百、濟、客、歸、于、國、是、月、田、部、連、等、
 至、自、掖、玖、冬、十、月、壬、辰、朔、癸、卯、天、
 皇、遷、於、飛、鳥、罍、是、謂、罍、本、宮、是、
 歲、改、脩、理、難、波、大、郡、及、三、韓、館、
 三、年、春、二、月、辛、卯、朔、庚、子、掖、玖、人、
 歸、化、三、月、庚、申、朔、百、濟、王、義、慈、入、
 〇日本紀標注卷之十九
 〇十二

元年、百濟王璋薨、諡曰武太。子義慈立、幼有孝友之行。乙卯、此御代の十三年、當と。按彼書、支那国の明と云、世の成化二十一年、不作、とむ、傳、誤とるよと多あり、故、我を以て彼を証すべし。○豐璋、孝德紀、豐璋、子作とあり、東国通鑑、子、國王父子の名を違て記す。○乙亥十九日、有間温湯、和名抄、摂津国郡名、有馬、阿利萬、式、同郡、有間、神社、温泉、神社、見、同国風土記、有馬郡、有塩之原山、有塩湯云々、中昔の書、此。温泉、おどく、見、さなり。

王子豐璋、爲質、秋九月丁巳朔乙亥、幸于攝津國、有間温湯、冬十二月丙戌朔戊戌、天皇至自温湯。四年秋八月、唐國遣高表仁、送三田耜、共泊于對馬、是時學問僧靈雲、僧旻、及勝鳥養、新羅、送使等從。

不肯宣天子命而還、とあり、舊唐書、高表仁、不作、とはを是とす。○僧旻、此僧の、孝德四年紀、及元亨釈書、見、さなり。○勝鳥養、姓氏録、百濟人多利須須之後也、去の勝を通證、カチとよみ、集解、ユスクリとよめ、孰も非、マサとよむべし、凡人、續紀三十八、勝、首益麻呂、續後紀五、勝、廣告、とあり、外、史、見、さず。甲寅四日、江口、推古紀、小委、注、せ、伊岐、史、姓氏録、伊吉連、出自、長安人、劉揚雍也、とあり、天武十二年紀、壹岐史、賜姓曰連、○神酒、和名抄、日、本紀、私記、云、神酒、美和、土佐風。

之、冬十月、辛亥朔甲寅、唐國使人、高表仁等、到于難波津、則遣大伴連馬養、迎於江口、船卅二艘、及鼓吹旗幟、皆具、整飭、便告高表仁等曰、聞天子所命之使、到于天朝、迎之、時高表仁對曰、風寒之日、飭整。

土記云、神河、訓
三輪川、源出此
山之中、魚于伊
與國、水清故為
大神釀酒、用此
河水、故為酒名
也云々、器物
ミワと云、る
神酒を入るよ
又名づく、
と、水を入る器を盃と云、るみかあじ、初來
朝使へ、神酒を賜ふ例、玄蕃式不見とたり
甲辰廿六日○
彗星、和名抄云、
其形如、
波々岐保之と
り、
不似たるゆゑ、

船艘、以賜迎之、歡愧也、於是令難
波、吉士小槻、大河内、直矢伏、為導
者到館前、乃遣伊岐史乙等、難波
吉士八牛、引客等入於館、即日給
神酒
五年春正月、己卯朔甲辰、唐國客
高表仁等歸國、送使吉士雄摩呂
黑摩呂等到對馬而還之

如此云、推古
二十八年紀云、
天有赤氣長一
丈餘、形似雞尾、
扶桑略記天德五年、二月廿七日酉時、坤方彗星似野火、氣多、
ふたつめ、
四尺未兌、進而東南、三月、生彗星、注云、天彗者一名掃星、木類、星末、類彗、小者數寸、
長、或竟天、而體無光、假日之光、故夕見、則東指、晨見、則西指、晉書天文志云、
一曰彗星、所謂掃星、云々、見則兵起大水、主掃除、除舊布新、淮南
子云、鯨魚死而星出、彗、
甲戌十日○辛
丑七日○瑞蓮
云々、和名抄云、
蓮、
茹、
久木と注セ、
即峰、
て、一莖二花の

六年秋八月、長星見南方、時人曰
彗星
七年春正月、彗星廻見于東、夏六
月乙丑朔甲戌、百濟遣達率柔等、
朝貢、秋七月乙未朔辛丑、饗百濟
客於朝、是月瑞蓮生於劔池、一莖

倒也、皇極三年、
紀小劔池蓮、中 二花

有一莖二蕚、續紀廿四、寶龜八年六月、條小、楊梅宮、池生蓮一莖二花、三代實錄十
八、貞觀十二年七月、條小、從四位下行伊勢守多治真人貞峯獻蓮一莖二花、日本
紀畧長保元年七月、條小、太宰府申一莖二花、白蓮、百鍊抄元永四年七月、條小、有
雙頭蓮生鳥羽宮、池、外記日記、天養元年七月、條小、莖二蓮花生法勝寺、池、皇帝紀
抄、治承三年七月、條小、法勝寺、池一莖二花開敷云々、梁書武帝紀、嘉蓮一莖三
花生樂遊苑云々、按小皇國西戎、蓮の奇花往々見て、是を瑞蓮嘉蓮など云
と、惣て凶兆ありしこと、其例を推
べし、○劔池也、大和国高市郡小在、
采女を奸去し
亦と上小脱せ
マ○田中宮、大
和志子、在高市
郡田中村、○大
派王、紹運録、
敏達天皇の御
子、難波皇子の

八年春正月、壬辰朔日蝕、三月悉
劾奸采女者、皆罪之、是時三輪君
小鷦鷯苦其推鞠、刺頸而死、夏五
月霖雨大水、六月災正本宮、天皇

男大候玉と
マ○豊浦大臣
云、大和志高市
郡、條小、豊浦村
マ○以鍾為
節、公式令、凡
京官、皆開門前
上、義解小謂、第
二開門鼓前也、
閉門後、下、義解小謂、退朝、鼓後
也、マ○、猶孝德紀、注べし
戊寅廿三日、○
流星、和名抄小、
流星、一名奔星、
和名與波比保
之夫木集十九
み、うらやまし、
遷居田中宮、秋七月己丑朔、大派
王謂豊浦大臣曰、群卿及百寮朝
參已懈、自今以後、卯始朝之、已後
退之、因以鍾為節、然大臣不從、是
歲大旱、天下飢之

九年春二月、丙辰朔、戊寅、大星從
東流西、便有音似雷、時人曰、流星
之音、亦曰地雷、於是僧旻僧曰、非

誰をく空のよ
 流星は雷の如し
 流出て光あらしむ、按み流星ふれ、必声あらしむ、號星の名なり、唐書天文志に、
 有流星聲如雷○地雷神代紀に、在腹曰土雷とあり、併見はべし○天狗、應仁
 記に、寛正六年九月十三日、夜亥ノ刻ニ、坤方ヨリ良方へ光物飛渡ケル天地鳴
 動シテ、乾坤モ忽折レ、世界モ震裂スルカト覺エ云々、翌年文正改元ノ九月十
 三日、同刻ニ本ノ方へ飛飯ケルゾ不思議也、天狗流星ト云物ニテ、有ケルトカ
 ヤ云々、史記天官書に、天狗狀如大奔星、有聲其下止地類狗、ト云、説より、漢書及
 晋書等の天文志の、説も是に因り、是をアマキツ子とよめらる、如何なる義
 小や、山海經に、有獸焉其狀如狸而白首名曰天狗、其音如榴々、可以禦凶とあり
 也、把あるふ似るといふ如何、唐李緯が尚書故實に、章仇兼瓊鎮蜀日、佛寺設大會
 百戲在庭、有十歲童兒、舞竿抄、忽有物狀如鵬鴉、掠之而去、群衆大駭、因而罷樂、後
 數日其父母、見在高塔之上、掇而取之、則神如癡、久之方語云、是如壁畫、飛天夜叉
 者、將入塔中日、飼果實、旬日、方精神如初、又馮夢龍が古今談概に、有術者哭云、吾
 見為天狗所殺矣、忽空中有血數點墜下、頃之頭足零星、而墜、因云、中昔より一種
 の天狗ト云、このあり、此天狗上代に、知られざはとのあれむ、是を神の御所為
 みて、後世に至り、神異を信ぜはよ
 天狗と云ふ名を負せははみや

流星是天狗也、其吠聲似雷耳

し酉原本、乙丑
 小作、て改む○
 丙戌二日○蝦
 夷也、奥羽のあ
 ？○不知所如
 原本如を、知ふ
 誤る、集解に
 改、たる、み、従ふ
 ○祖等、神功紀
 小、四十九年春
 三月、以荒田別
 鹿我別、為將軍
 云々、擊新羅而
 破之云々、仁徳
 紀に、五十三年
 新羅不朝貢、遣
 上毛野君祖竹

三月乙酉朔丙戌日蝕之是歲蝦夷叛以不朝即拜大仁上毛野君形名爲將軍令討還爲蝦夷見敗而走入壘遂爲賊所圍軍衆悉漏城空之將軍迷不知所如時日暮踰垣欲逃爰方名君妻歎曰慄哉爲蝦夷將見殺謂夫曰汝祖等渡蒼海跨萬里平水表政以威武傳於後葉

葉頼、令問其關貢、つるふどを踏、万里と云、

○水表も、彼方あり、字書も表外也と注せ、

鳴絃も、古代よ
傳もりて、其
今汝頓屈先祖之名、必為後世見

法武家も存れ
禁松御抄、恒
側、毎日次第、條
子、藏人為鳴絃、

候、戸外、内待申
具由、云々、次典
侍取、河藥器、抛
板子、時藏人、鳴

絃云々、中有記
元永二年、五月
廿八日、條、鳴
弦五人、五位十

人、列立、十人、榮花物語初花、歩むり、一湯も、大ふどんのきみ云々、はつはうら
五の十人、六の十人、とらるも、此件の十弓の故事も、よりたるみや、○振旅も、軍

而夫更起之、取伏伏而進之、蝦夷
以爲軍衆、猶多而稍引退之、於是
散卒更聚、亦振旅焉、擊蝦夷、大敗

以悉虜

劍、張二十弓、令女人數十、俾鳴絃、既

而夫更起之、取伏伏而進之、蝦夷

以爲軍衆、猶多而稍引退之、於是

散卒更聚、亦振旅焉、擊蝦夷、大敗

以悉虜

劍、張二十弓、令女人數十、俾鳴絃、既

而夫更起之、取伏伏而進之、蝦夷

以爲軍衆、猶多而稍引退之、於是

散卒更聚、亦振旅焉、擊蝦夷、大敗

以悉虜

劍、張二十弓、令女人數十、俾鳴絃、既

而夫更起之、取伏伏而進之、蝦夷

以爲軍衆、猶多而稍引退之、於是

散卒更聚、亦振旅焉、擊蝦夷、大敗

○日本紀標注卷之十九

○十七

整あり、隱公五年、左傳、兵入振旅、注、治兵、禮畢、整衆而還、振

整也、旅、衆也、後漢書皇甫規傳、不聞振旅之聲、注、振、整旅衆

乙丑十九日、○桃李華也、狂北

あり、○温湯宮

有馬郡湯山村

杉谷、○壬子八

日、○乙卯十一

日、○新嘗、下、原

本蓋因、幸有間

の十字也、撰者

の筆、みりら、ざ

る、み、似たれ、ど、
姑く原本、み、從
ふ、○丙辰十二
日、○無雲而雷
え、支那書、み、七

十一年春正月、乙巳朔、壬子、車駕

還、自温湯、乙卯、新嘗、蓋因、幸有間、

以闕、新嘗、歟、丙辰、無雲而雷、丙寅、

大風而雨、巳巳、長星見、西北、時、旻

折木、發屋、九月霖雨、桃李華、冬十

月、幸有間、温湯宮、是歲百濟新羅

任那並朝貢

例多りや○巳
已廿五日○長
師曰慧星也見則飢之

星唐書天文志云有長星云々、亘天長星、
慧屬○是師之上見也なる僧是云

大宮大和志云
在十市郡飯高
秋七月詔曰今年造作大宮及大

村故址今半入
廣瀨郡○大寺
寺則以百濟川測為宮處是以西

之百濟大寺
て委皇極紀云
民造宮東民作寺便以書直縣為

注べし○百濟
大匠秋九月唐國學問僧惠隱惠

高市郡流於郡
雲從新羅送使入京冬十一月庚

東界至于河合
子朔饗新羅客於朝因給冠位一

入廣瀨川○西
字の如し大和
級十二月巳巳朔壬午幸于伊豫

らず初大宮を
寺と等並み民
温湯宮是月於百濟川側建九重

をして仕しめ
しを思へむ佛
塔十百濟川西千餘分宮是長

を崇めしゆとの、あふふありしを見るべし○書直應神紀の書首に注せり○
壬午十四日○温湯宮和名抄云伊豫國温泉郡何？式不同郡温泉神社見吹同

國風土記云湯郡大穴持命見悔耻而宿奈毗古那命欲活而大分速見湯自下極
持皮來以宿奈毗古奈命而浴漬者暫間有活起居然詠曰真暫寢哉踐健跡處今

在湯中石上也凡湯之貴奇不神世時耳於今世添赤痕萬生為除病存身要藥也
天皇等於湯幸行降坐五度也云々○九重塔按小瓶をコシキとよめりコシと

を重る意り新撰字鏡云槽を巳志木と
注せり字書云槽高樓無屋者とわ

甲戌七日○士
十二年春二月戊辰朔甲戌星入

坂宮大和國
月夏四月丁卯朔壬午天皇至自

高市郡小て應
伊豫便居鹿坂宮五月丁酉朔辛

神紀小鹿坂池
りり○辛丑五

日○无量壽經
も、佛説无量壽
經あり○乙亥
十一日

又、大設齋、因以請惠隱僧、令説无
量壽經、冬十月乙丑朔乙亥、唐國、
學問僧清安、學生高向、漢人玄理、
傳新羅而至之、仍百濟新羅、朝貢
之使、共從來之、則各賜爵一級、是
月徙於百濟宮、

丁酉九日○丙
午十八日○百
濟大殯の、百濟
地名を云○
開別皇子也、天
智天皇子也、称

十三年冬十月、己丑朔丁酉、天皇
崩于百濟宮、丙午、殯於宮北、是謂
百濟大殯、是時東宮開別皇子、年

たる御名を、上
ふめくらしら
るあり、初の御名大中
大兄皇子と称せ

十六、而誅之

皇極天皇

原本卷首、日
本書紀卷第二
十四、とらり○
天豐財重日足
姫天皇也、好字
のみを集て、極
たり、真の御名
才賢、皇女と申
し、おと、舒明紀
不見、とらり、此
天皇を後、不皇
極と謚奉り
○淳中倉云々

天豐財重日足姫天皇
天豐財重日足、此、足姫天皇、
天豐財重日、伊、柯、之比、足姫天皇、
淳中倉太珠敷天皇、曾孫、押坂彦
人大兄皇子、孫、茅淳王、女也、母曰
吉備姫王、天皇、順考、古、道、而為政

敏達天皇を
申○曾孫垂仁
紀小注しつ○
吉備姫王を紹
運録ふ吉備姫
女王小作や欽
明天皇の御孫
ふて櫻井皇子
の女之○辛未
十五日○八鹿
と和名抄ふ、
飾をよめ、此
魚子由何て、
名づけしみや
○鞍作を乳母
の姓を取、
ふや○恐懼、
シケてふ語を、

也、息長足日廣額天皇二年立爲
皇后十三年十月息長足日廣額
天皇崩
元年春正月丁巳朔辛未皇后即
天皇位以蕪我臣蝦夷爲大臣如
故大臣兒入鹿夏名自執國政威
勝於父由是盜賊恐懼路不拾遺
乙酉百濟使人大仁阿曇連比羅
夫從筑紫國乘驛馬來言百濟國

源氏ふあむく
見とたり是を
ヒシクルを活
けり原本攝を
攝小誤とり○
乙酉北九日○
戊子二日○阿
曇比良夫原本
阿曇山背連比
良夫とあり山
背を衍と、ハ、
集解小削とる
小従ふ○草壁
吉士を日下部
と別姓あり天
武十二年紀ふ
草壁吉士賜姓
曰連○百濟下

聞天皇崩奉遣吊使臣隨吊使共
到筑紫而臣望仕於葬故先獨來
也然其國者今大亂矣二月丁亥
朔戊子遣阿曇連比良夫草壁吉
士磐金倭漢書直縣百濟吊使所
問彼消息吊使報言百濟國主謂
臣言塞上恒作惡之請付還使天
朝不許百濟吊使倭人等言去年
十一月大佐平智積卒又百濟使

○日本紀標注卷之十九

○二十

原本遺字有り、
そ行は、今集
解、前記は、
從ふ○塞上、
百濟王の弟、名
子、齊明紀、
立塞上、為輔、
記し、是を孝德
紀、塞城、作
也、續紀十三、
小、船、漂着、
中国語、自謂、
人の住める国
海經博物志、
マ○壬辰六日
○丁未廿一日
○難波郡、
る郡名、聞、
人、擲、
主母薨、
妹女子四人、
之、人、卅、
紀、塞城、作、
也、續紀十三、
小、船、漂着、
中国語、自謂、
人の住める国
海經博物志、
マ○壬辰六日
○丁未廿一日
○難波郡、
る郡名、聞、
人、擲、
主母薨、
妹女子四人、
之、人、卅、
紀、塞城、作、
也、續紀十三、
小、船、漂着、
中国語、自謂、
人の住める国
海經博物志、
マ○壬辰六日
○丁未廿一日
○難波郡、
る郡名、聞、

人、擲、
主母薨、
妹女子四人、
之、人、卅、
紀、塞城、作、
也、續紀十三、
小、船、漂着、
中国語、自謂、
人の住める国
海經博物志、
マ○壬辰六日
○丁未廿一日
○難波郡、
る郡名、聞、
人、擲、
主母薨、
妹女子四人、
之、人、卅、
紀、塞城、作、
也、續紀十三、
小、船、漂着、
中国語、自謂、
人の住める国
海經博物志、
マ○壬辰六日
○丁未廿一日
○難波郡、
る郡名、聞、

見む、大郡、小郡
ハガタ、
みつ、古歌、
に、多、
難波、
波郡、
一失、
坂の地、
し、伊梨、
作、
し、め、古、
私記、
見む、大郡、小郡
ハガタ、
みつ、古歌、
に、多、
難波、
波郡、
一失、
坂の地、
し、伊梨、
作、
し、め、古、
私記、
見む、大郡、小郡
ハガタ、
みつ、古歌、
に、多、
難波、
波郡、
一失、
坂の地、
し、伊梨、
作、
し、め、古、
私記、

金銀等、
而、
月、
伊梨、
第王、
流、
金銀等、
而、
月、
伊梨、
第王、
流、
金銀等、
而、
月、
伊梨、
第王、
流、

戊申廿二日○百濟下原本客字を脱せ、旁注小抄にて補ふ○国勝吉士水鷄を誤り、齊明紀に難波吉士国勝と見ゆたるに別り○庚戌廿四日○辛亥廿五日○癸丑廿七日○戊午三日○無雲而雨、敏達十四年紀にも見ゆ○騰極も、登極もあふじ○庚午

戊申、饗高麗百濟客、於難波郡、詔大臣曰、以津守連大海、可使於高麗、以國勝吉士水鷄、可使於百濟、水鷄、此、以草壁、吉士真跡、可使俱比那、於新羅、以坂本、吉士長兄、可使於任那、庚戌、召翹岐、安置於安曇連家、辛亥、饗高麗百濟客、癸丑、高麗使人、百濟使人、並罷歸、三月丙辰朔、戊午、無雲而雨、新羅遣賀騰極

十五日○癸巳八日○乙未十日○畝傍を原本敏傍ふ誤じ○巳未五日○依網屯倉、仁徳紀に注せ○射獵を、ウマユミとよめるも、馬弓よて、和名抄に騎射と宇末由美と注せ、是を射獵と書らるを思へむ、五月五日ふと、薬獵を兼ねたは、○庚午十六日

使、與吊喪使、庚午、新羅使人罷歸、是月霖雨、夏四月、丙戌朔、癸巳、太使翹岐、將其從者拜朝、乙未、蘇我大臣、畝傍家、喚百濟、翹岐等親對、語話、仍賜良馬一疋、鐵二十錠、唯不喚塞上、是月霖雨、五月乙卯朔、巳未、於河内國、依網屯倉前、召翹岐等、令觀射獵、庚午、百濟國使、船、與吉士、船、俱泊于難波、津

○難波津下、原本細字、蓋吉士前奉使於百濟乎と云、十字有り、後人の攙入云れを削る

壬申十八日 ○復命、原本服命

小誤とて、集解
小改、たる小從
ふ○乙亥廿一日
日○丙子廿二日

日、原本丙申と
丙とど、此月の
干支小合され
む改、つ○姉妹

も、オト、ヒと
よむべきまう、平
家物語をとし
め、大方を、女小

云、とど、十訓抄
八小、堀川院御
子、移於百濟、大井家、乃遣人葬兒

亡者、雖父母兄弟夫婦姉妹、永不
自看、以此而觀、無慈之甚、豈別禽

獸、丁丑、熟稻見、戊寅、翹岐將其妻

果不臨喪、允百濟新羅、風俗有死

兒死去、是時翹岐與妻、畏忌兒、死

亥、翹岐從者一人死去、丙子、翹岐

壬申、百濟使人進調、吉士復命、乙

於石川

六月、乙酉朔、庚子、微雨、是月、大旱、

秋、七月、甲寅朔、壬戌、客星入、月、乙

亥、饗百濟使人、大佐平智積等於

朝、或本云、百濟使人、大佐平智乃

命、健兒、相撲於翹岐前、智積等宴

畢而退、拜翹岐門

時、おと、ひみ
て、家細行細と

云、倍從、有り、り、り、を思、も、男、小、も、云、を、故、上、小、兄、弟、と、有り、と、む、姉、妹、と、字、の

は、小、ま、ま、む、考、ふ、べ、し、○丁丑廿三日、○熟稻、天智紀、小、稻、生、而、穂、其、且、垂、穎

而、熟、記、の中、卷、小、波、都、邇、波、波、陀、阿、可、良、氣、美、云、々、○戊寅廿四日、○百濟

大井も、河内国、錦部郡、小、敏、達、紀、小、注、せ、て、○石川も、河内国、の、郡、名

庚子十六日、○

微雨、和名抄、小

細雨、一名、露、霖、小

雨、也、和名、古、左、女、万、葉、十、一

小、大、野、小、雨、被、敷、木、本、云、々、○

壬戌九日、○客、星、も、星、と、の、み、見、て、有、る、べ、し、

階、書、天、文、志、小、客、星、者、周、伯、老

子、王蓮繁、國皇、温星云々○乙亥廿二日○健兒も力人あり、續紀十一、免諸道
健兒諸士云々、雜徭之半、同十三、停東海東山云々、諸國健兒、同廿四、簡黥伊
勢近江云々、郡司、子弟及百姓、年四十已下二十已上、練習弓馬者、以為健兒と
して、人數も兵部式不見、是を常小コンデーと点し、仮名も、平家物語
み、あんでい、らと、り、唐、六典、兵部尚書の注を見る、非常の時も、兵士不
充る由あり○相撲も、垂仁紀小捕力とあり、彼処に注しつ、凡相撲の七月不
行も、或、や、あり、し、此、世、始、ある、猶類聚國史
七十三、及西宮記北山抄等、七月相撲召合條を見ればし

丙子廿三日○
賢者、和名抄、
童未冠之稱也、
和良波、振子、和
良波、倍と注せ
、按、是、中
昔、聞、なる
内、豎、あり、續紀
廿八、神護景雲
元年七月、始

是日同時、有、以、白雀、納籠而送
蘇我大臣、戊寅、群臣相謂之曰、隨
村々、祝部所教、或殺牛馬、祭諸社、
神、或、頻、移市、或、禱河伯、既無所効、

置内豎省と見
也たり○白雀
も、治部式の中
瑞、見、なり
○戊寅廿五日○殺牛馬、通證、不以牛馬祭神者、西土之俗、而我神之所忌、有如此
者、其移市、禱河伯、亦效西土之俗、耳と云、る、如し○河伯も、仁徳紀に注せり、以
上、祈雨のため、祭り、神も受、け、ず○大乗
經典も、華嚴大集、大品、法華涅槃等を云、よ、し、あり
庚辰廿七日○
大寺も、百濟大
寺、も、て、舒明紀
に注せり○菩
薩、用、明紀、に、注
せり○香鑪、和
名抄、に、香鑪、の
作、り、を、○焼香、
齋宮式、に、堂、稱
香、燃、万葉十六

蘇我大臣報曰、可於寺寺、轉讀大
乘經典、悔過如佛、所說、敬而祈雨
庚辰、於大寺、南庭、嚴佛菩薩像、與
四天王、像、屈請衆僧、讀大乘經等、
于時、蘇我大臣、手執香鑪、燒香發
願、辛巳、微雨、壬午、不能祈雨、故停
讀經、

香塗流塔爾莫依云々香をコリとよめる也香を穢を拂ふと云よりして垢離て俗意ク○辛巳廿八日○壬午廿九日○停讀經按小佛小驗あきき今も然る續後紀三ノ辛亥初為祈雨轉讀大般若經期日已満晴而無應由是轉經更延二日以効精誠丁巳无片雲炎氣如燥とあり辛亥より丁巳まで七日あり○南淵河も大和国高市郡畑村を流る○拜四方按不元旦み四方拜の祭式を行ひ終ふと是小本づけるみや○大雨推古紀に注せて初僧らがくむりり勞も天地神明の應ひ然るべき理も

八月甲申朔、天皇幸南淵河上、跪拜四方、仰天而祈、即雷大雨遂雨五日、溥潤天下、アマテラスノホヒツ或本云、五日連於是天下、百姓俱稱萬歲、曰至德天皇、已丑、百濟使參官等罷歸、仍賜大舶與同船三艘、是日夜半雷鳴西南角而風雨參官等所乘船舶

こと○連雨和名抄に霖連雨奈加女○九穀也、タナツモノとよむべし、文選補亡詩に、靡田不殖、九穀斯茂、五

觸岸而破

雜組に、九穀者、黍稷麻麥稻粱菰大小豆○已丑六日○同船也、間船り、集解に、舩字の扁を省りりと云とど、字書に、舩、舟名とのみりりて、義理を記さばむ、お

例不違、む、前日○丙申十三日○小徳も第二等の冠ふること、推古紀に見えたる、原本小を少し誤れ、○中客へ、上客ニ對したり、マラトも稀人の轉略あり○戊戌十五日、原本戊辰に作し、ど、此月戊辰の日不れど、通證に改たるふ、たらぐふ○已亥十六日○巳酉廿六日

丙申以二小徳、授二百濟、質ハカ達率長福、中客以下授位一級、賜物各有差、戊戌、以レ船、賜ニ百濟、參官等、發遣、已亥、高麗、使人罷歸、已酉、百濟新羅、使人罷歸

乙卯三日○起造大寺、舒明十一年、紀小、詔曰今年造作大宮及大寺、とわにど果さずして今年又詔出於へ、此寺も大和国、廣瀨郡小在りて、一名大安寺と云、扶桑略記、天智天皇七年五月、條不、勅造百濟大寺、今、大安寺也、續紀卅七、施百濟寺、近江播磨、二国、正税各五千束、類聚国史三十二、弘仁五年二月、佐為及百濟寺、施綿各一百屯云々、佐為攝津国鳴下郡、佐井寺を云、三代實録卅八、大和国十市郡、百濟川、邊田一町七段百六十步、高市郡夜部村田十七町七段二百五十步、返入大安寺、先是被寺、三綱、申牒、備昔日聖

九月癸丑朔乙卯、天皇詔大臣曰、朕思欲起造大寺、宜發近江與越之丁、復課諸國、使造船舫、辛未、天皇詔大臣曰、起是月限十二月、以來欲營宮室、可於國國取殿屋材、然東限遠江西限安藝發造宮丁、癸酉、越邊蝦蟇數千内附

德太子創建平群郡熊凝道場、飛鳥岡本天皇、遷建十市郡百濟川、邊、施入封三百戸、號曰百濟大寺、子部大神在寺、近側、舍怨、屢燒堂塔、天武天皇遷立高市郡、村號曰高市大宮寺、施入封七百戸、和銅元年遷都平城、聖武天皇降詔、預律師道慈、令遷平城號大安寺、今檢兩處、舊地水濕之地、收為公田、高燥之處、百姓居住、請依實返入為寺家、田從之、色葉字類抄引り、大安寺緣起、天平十七年、改大宮大寺、以為大安寺、詔曰、今天下大平安樂之義也、同国後有東大寺西大寺、故俗為南大寺焉云々、原本細字、百濟大寺と云、集解、削も依不從ふ、○船舫、訓カ、腐、小心得べし、字書、舫、並、兩舫と云、其義、みりり、○辛未十九日、○癸酉廿一日、○蝦蟇、考德紀、治磐舟、柵、以備蝦夷、と云、磐舟、越後国の郡名、を、續紀、一、越後、蝦夷、一百六人、賜爵、有差云々、蟻、と字書、み見、さ、夷、不、虫、篇、を、加、た、る、のみ、唐書、二百二十、日本傳、も、使者、與、蝦蟇、人、皆、朝、蝦蟇、亦、居、海、島、中、云、々

庚寅八月○辛卯九日○甲午十二月○丁酉廿一日○丙午廿四日○夏令字書、月、令、所

冬十月、癸未朔庚寅、地震而雨、辛卯、地震是夜、地震而風、甲午、饗蝦蟇於朝、丁酉、蘇我大臣設蝦蟇於

以紀十二月之
政、と記せり、按
ふ夏、小為べき
ふとの後、とて、
此月、ふ行ひし
は、このり、
む、無、雲、雨、と、し、禮、の、月、令、の、文、
み、諱、ひ、た、る、心、ち、し、て、言、痛、し、

十一月、下、壬子
を脱せ、奴、長曆
を推、て、補、ふ、○
癸丑、二日、○丙
申、四日、○巳未
七日、○庚申、八
日、○辛酉、九日
○壬戌、十日、○
甲子、十二日、○
丁卯、十五日、○

家、而、躬、慰、問、是、日、新、羅、吊、使、船、與、
賀、騰、極、使、船、泊、于、壹、岐、嶋、丙、午、夜、
中、地、震、是、月、行、夏、令、無、雲、雨、
十一月、壬子朔、癸丑、大雨、雷、丙辰、
夜半、雷、一、鳴、於、西北、角、巳未、雷、五、
鳴、於、西北、角、庚申、天、暖、如、春、氣、辛
酉、雨、下、壬戌、天、暖、如、春、氣、甲子、雷
一、鳴、於、北、方、而、風、發、丁卯、天、皇、御

新嘗神祇令
仲冬、下卯大嘗

新嘗是日皇太子大臣各自新嘗

祭、義、解、謂、若、有、三、卯、者、以、中、卯、為、祭、日、不、更、待、下、卯、也、公、事、根、源、十、一、月、中、卯、日、
條、ふ、代、の、始、ふ、大、嘗、會、と、云、年、毎、の、を、を、新、嘗、會、と、申、也、ト、食、の、人、々、摺、衣、日、蔭、
を、著、き、用、明、天、皇、二、年、四、月、よ、り、新、嘗、の、こ、と、を、い、ひ、す、ゆ、云、々、年、治、云、新、嘗、祭、と、
神、代、よ、り、む、じ、酒、と、る、な、と、委、官、故、ふ、記、し、ふ、り、れ、を、爰、ふ、略、と、り、ふ、十、一、月、中、
卯、を、祭、日、と、定、め、ひ、し、全、此、御、代、よ、り、あ、る、○、皇、太、子、も、中、大、兄、皇、子、を、申、せ、は、
み、と、も、舒、明、十、三、年、紀、ふ、も、東、宮、開、別、皇、子、と、記、し、た、る、ふ、て、著、し、是、を、後、み、天、智、
天、皇、と、申、奉、れ、む、皇、太、子、と、申、も、妨、ふ、き、ふ、似、た、れ、ど、此、時、未、皇、太、子、を、定、ら、ざ、り、
し、こ、と、次、三、年、正、月、紀、を、見、ゆ、べ、し、然、ふ、爰、ふ、如、此、記、せ、は、を、撰、者、の、私、意、の、み、○
各、自、新、嘗、按、ふ、上、代、も、家、毎、ふ、新、嘗、の、神、事、を、行、ひ、し、
こ、と、万、葉、十、四、ふ、見、ゆ、た、る、上、總、國、歌、み、て、あ、る、し、

甲申三日 ○庚
寅九日、原本庚
寅以下風雨以
上十字、錯、て、辛
丑の次、ふ、入、と
今集解、ふ、正

十二月、壬午朔、天、暖、如、春、氣、甲申、
雷、五、鳴、於、晝、二、鳴、於、夜、庚寅、雷、二、
鳴、於、東、而、風、雨、甲午、初、發、息、長、足

甲午十二月○
 發息長足日費
 額天皇喪ハ舒
 明天皇のあり
 彼天皇を十三
 年十月崩
 十五月と經
 て喪を發し
 ふこと詳あり
 ず集解不謂發行葬禮也と云と葬禮を又十日を經て壬寅の日あること次
 件不見とたり如し○巨勢臣德太公卿補任ハ雄柄宿禰七世孫父故孫子也
 とあり續紀十八ハ雀部朝臣真人等言繁余玉穗宮勾金椅宮御宇天皇御世雀
 部朝臣男人為大臣供奉而誤紀巨勢男人大臣真人等先祖巨勢男柄宿禰之男
 有三人星川建日子者雀部朝臣等祖也伊刀宿禰者輕部朝臣等祖也乎利宿禰
 者巨勢朝臣等祖也云々此乎利とありと平群の誤多し三代實錄五ハ
 味酒首文宗等三人並賜巨勢朝臣先是巨勢朝臣河守等奏言文雄兼備先祖出
 自武内宿禰大臣也第五男巨勢男韓宿禰是巨勢朝臣之祖とあり男柄と云人

日廣額天皇喪是日小德巨勢臣
 德太代大派皇子而誅次小德粟
 田臣細目代輕皇子而誅次小德
 大伴連馬飼代大臣而誅乙未息
 長山田公奉誅日嗣

此紀不見也これ德太の世系をあらしめむ如し引出たり○大派皇
 子も敏達天皇の御子○粟田臣細目推古紀不見とたり○輕皇子も後ハ孝德
 天皇と申○大伴連馬飼舒明紀ハ馬養ハ作ハ考德紀ハ大伴長德連字馬飼と
 あハ公卿補任ハ金村大臣之曾孫父咋子連とあり○乙未十四日○息長山田
 公姓録ハ息長連應神天皇皇子推尊毛二侯王之後也天武十三年紀ハ息長
 公賜姓曰真人○奉誅日嗣ハ天津日嗣ハ天武紀ハ天業をよみ崇神紀ハ踐
 祚をよみ神代紀ハ寶祚をよみ持統紀ハ奉誅皇祖等之騰極次第禮也と
 あり初誅も敏達紀ハ不見初て推古紀ハより委傳ハとを愛ハ誰ハ誰ハ代ハ誅ハ
 どのも由ハるべし此誅を志ハ此已止とありて死人を忍ビうハむ意を
 詞ハらるもを云字書ハ誅ハ壘述前人之功德也とありと我古ハ異あり又礼
 曾子問ハ賤不誅實幼不誅長もど云るも支那人の私言ハ我ハ關ラズ然ハ
 光仁天皇天應元年の續紀ハ誅人奉誅とありて其役をさハ定ハるも大轉
 へるあり○辛
 丑七日○壬寅
 廿一日○滑谷
 尚詳ふハハ通
 證ハ寺嶋氏曰
 在高市郡冬野

辛丑雷三鳴於東北角壬寅葬息
 長足日廣額天皇于滑谷崗是日
 天皇遷移於小墾田宮
 或本云遷於東宮南

村○小墾田宮
推古紀不見
廿三日○甲辰
三十日○辛亥
我氏の祖を祭
る所、按此時よ
る既、支那風を真似び初より○葛城高宮、和名抄子、葛上郡郷名高宮と云、
此地のこと垂仁紀に注せ、志小葛上郡高丘廟、在森脇村○八僧、白虎通云、天
子八僧諸侯六僧、大夫四僧云々、僧者列也以八人為行列、八八六十四人也、五代
史崔悅傳、八僧、六十有四人、冠進賢黃紗袍云々、是も僭て支那俗を諷ひたる
あり○野麻騰
能、大和之ふ
マ○飲斯能毗
稜、栖鳴、契沖
ダ忍、廣瀨、ま、
葛上郡の北也、

庭之甲辰、雷一鳴於夜、其聲若裂、
辛亥、天暖如春、氣是歲蕪我大臣
蝦蟇立已祖廟於葛城高宮、而為
八僧之儻
遂作歌曰、野麻騰能、飲斯能毗稜
栖鳴、倭拖羅務騰、阿庸比拖豆矩
梨、舉始豆矩羅符母

愚海郡ふれ、彼所より河の廣瀬を云、意ありと云、○倭拖羅務騰、將渡と
あり○阿庸比拖豆矩梨の庸をユの古音以て書り、万葉十七、和可久佐能
安由比多豆久利、同七、足結と書り、ゆが正字よて、安原紀云、阿由臂能古輪孺
と云、手して作を云、よし翁の説ありと云、○舉始豆矩羅符母と、契沖が腰
版あり、もと助語と云、豆矩羅符と作、その延語、按此歌も、八僧を舞としむ
る小就て、作を、な、お、ゆ、ら、す、素、より
つ、り、ひ、歌、を、ご、と、し、め、れ、る、ふ、こ、を、

又盡發舉國之民、并百八十部、
預造雙墓、今來一曰大陵、為大臣、
後勿使勞人、更悉聚上宮、乳部之
民、役使營兆所、於是上宮、

○日本紀標注卷之十九

○二十九

あや、今木を欽
明紀不見をた
れど、猶齊明紀
み注べし。○大
臣、墓を蝦夷の
あり。○上宮を
聖徳太子の居
し地あり。乳部
と仁徳紀に、壬生部を
み用たる例あり。れを改つ。○上宮大娘姫王と、聖徳太子の女あり。○發憤、大和
物語ふいりふるをまふりりたるむ、むつりて親をりりらの、いふはとよま
りて云々、源氏帚木、格子をあげしとど守心ありしとむつりりておろしつれ
む。○国無二王と、孔子家語に見えたる語あり、初
無二王とも、蝦夷らば朝廷を、幾もをいふ
五色雲、周禮宗
伯保章氏、條み
以五雲之物辨
吉凶水旱。○辛

大娘姫王、發憤而歎曰、蘇我臣專擅國政、多行無禮、天無二日、國無二王、何由任意、悉殺封民、自茲結恨、遂取俱亡。是年也太歲壬寅。
二年春正月壬子朔、具五色大雲、滿覆於天、而闕於寅、一色青霧、周起於地、辛酉、大風。三月辛巳朔、庚子、桃華始見。乙巳、雹傷草木華葉。是月風雷、冰雨、行冬令。三月辛亥朔、癸亥、災難波、百濟客館堂與民家室、乙亥、霜傷草木華葉。是月風雷雨、冰、行冬令。自是年春、

酉十日○庚子
廿日○乙巳廿
五日○冬令と
上不行夏令と
るる処を併見
るべし、う、れ
類、禮、月令み見
るたり、原本国
内巫覡等折取
枝葉云々、三十
七字有り、三年
六月、紀の錯乱
あり、む刪つ。○癸亥十三日○乙亥廿五日○雨水、和名抄み、霽雨雪相雜也、三曾
禮新撰字鏡み、霖をよみ、續古今集み、ふり出夜の雨、たぐひて、あるもれを、春
のみをれと、思ひらかりあ。○行
冬令、上におあし、若、を行ははり
丙戌七日○丁
亥十三日○巳

夏四月、庚辰朔、丙戌、大風而雨。丁

亥廿五日○西
風記の下巻
夜麻登幣迹、
斯布岐阿瓦互
○三領、舊讀ミ
ツラと何とど
例をあらざ、中
宮式、自祇衣
一領、源氏桐壺
み、さうぞくむ
とくどと云々、
塵添、堪囊抄三
小、衣類ヲバ、小
袖一領、帷一領、
ト云ベシ、一領
ヲヒトクダリト
讀也、とり、小
從
みべし、○庚子
廿一日、○丁未
廿八日、○權宮
と、小墾田宮、
みて、東宮、南
庭之權宮
を云、是、高市
郡、おれこと、
著れど、宮、趾
詳あらざ、○
甲辰廿五日

亥、風起、天寒、巳亥、西風、而雹、天寒
人着、繻袍、三領、庚子、筑紫、大宰、馳
驛、奏曰、百濟國、主兒、翹岐、弟王子、
共調、使來、丁未、自權宮、移幸、飛鳥
板蓋、新宮、甲辰、近江、國言、雹下、其
大徑一寸
五月、庚戌、朔、乙丑、月、有蝕、之、六月

巳亥年、舒明
天皇十一年、小
て、今年、小至、
五年、○辛丑、廿
三日、○辛亥、三
日、○難波郡、
上、小、も、ふ、む、
見、と、たり、○去
年、所、還、も、元、年
紀、小、波、たり、○
茨田池、と、河内
志、小、在、茨田郡
平池村、と、記、せ
る、今、同、村、西、南
小、方、で、一、畝、許
の、空地、在、る、是
其、池、の、跡、あり
と、云、る、○八月

巳卯朔、辛卯、筑紫、大宰、馳驛、奏曰、
高麗遣使來朝、群卿聞而謂之曰、
高麗自巳亥年不朝、而今年朝也、
辛丑、百濟、進調、船泊于難波、津、秋
七月、巳酉朔、辛亥、遣數大夫於難
波郡、檢百濟國、調與獻物、於是大
夫問調使曰、所進國調、欠少前例、
送大臣物、不改去年所還之色、送
群卿物、亦全不將來、背違前例、其

下、原本戊月とあり、
む削る○壬戌十五日○藍汁和名抄、藍殿阿井之流○壬午六日○葬を改葬あり、其由元年十二月、紀不見なり○
押坂陵、諸陵式、小押坂内、陵在大和国城上郡、兆域東西九町、南北六町、陵戸三煙、志不在忍坂村、上、今稱丹家○高市天皇

狀何也、大使達率自斯、副使恩率軍善、俱答諮曰、即今可備自斯、實達率武子之子、是月茨田池、水大、是、不中喫焉、九月丁丑朔壬午、葬息長足日廣額、天皇于押坂陵、
水或

万葉一、高市崗本宮、御宇天皇、同四、高市岳本宮ともり、舒明紀、天皇遷於飛鳥毘、是謂、本宮とあり、即高市郡小町、
丁亥十一日○吉備嶋皇祖母命、吉備姫王を申、即欽明天皇の御孫、櫻井皇子の女、みて、天皇の御母、あ、鳴、高市郡の地名、ふれ、む、彼地、小坐、し、み、や○癸巳十七日○土師娑婆連猪手、推古十一年、紀、小、來

云、廣額、天皇、
為高市、天皇也、
丁亥、吉備嶋皇祖母命薨、癸巳、詔、土師娑婆連猪手、視皇祖母喪、天皇自皇祖母命卧病、及至發喪、不避床側、視養無倦、乙未、葬皇祖母命于檀弓崗、是日大雨而雹、丙午、罷造皇祖母命墓、仍賜臣連伴造帛布、各有差、是月茨田池、水漸

目、皇子薨云々、
殯于周芳、娑婆
乃遣土師連猪手、令掌殯事、故猪手、連之孫、曰娑婆、連其是之緣也、と云ふより
て、土師娑婆連と云、○乙未十九日、○檀弓崗、大和高市郡、志、不、真、
弓村あり、万葉二、日並知皇子、殯宮の時の歌を、由縁、母、無、真、弓、乃、崗、爾、宮、柱、太、
布座云々、諸陵式、不、檜隈、墓、吉備姫王、在大和国高市郡、檜隈、陵、域、内、無、守、戸、志、不、
と在、越、村、と記
せ、○丙午三
十日、○巳酉三
日、○前所勅、
脱、と、無、改
換、と、ある、を、思
へ、此、時、国、司
の、交、替、を、停、
ひ、し、あり、○壬
子、六、日、○紫、冠
も、大、小、徳、を、云、
孝、徳、紀、み、七、色

變、成、白、色、亦、無、臭、氣
冬、十、月、丁、未、朔、巳、酉、饗、賜、群、臣、伴、
造、於、朝、堂、庭、而、議、授、位、之、事、遂、詔
國、司、如、前、所、勅、更、無、改、換、宜、之、厥
任、慎、爾、所、治、壬、子、蘇、我、大、臣、蝦、蟻、
縁、病、不、朝、私、授、紫、冠、於、子、入、鹿、擬、
大、臣、位、復、呼、其、弟、曰、物、部、大、臣、大

十三階を、
、第三、子、當、
小、紫、冠、を、と、
是、と、え、別、あり
む、○其、弟、を、入、鹿、の、あり、○物、部、大、臣、も、外、戚、の、姓、を、冒、せ、り、其、祖、母、も、大、連、の、妹、
ある、こと、崇、峻、紀、小、見、色、たり、○祖、母、も、和、名、抄、に、於、波、と、注、せ、り、伯、母、と、別、あり、
混、べ、う、ら、ば、○
戊、午、十、二、日、○
古、人、大、兄、も、舒
明、天、皇、の、御、子
み、て、母、を、蘇、我、
馬、子、の、女、法、提、
郎、媛、あ、と、む、入
鹿、山、因、り、○
童、謠、新、撰、字、鏡
小、謠、和、佐、宇、太
と、注、せ、り、ワ、ガ
と、え、真、あら、ぬ

臣、之、祖、母、物、部、弓、削、大、連、之、妹、故
因、母、財、取、威、於、世、
戊、午、蘇、我、臣、入、鹿、獨、謀、將、廢、上、宮、
王、等、而、立、古、人、大、兄、為、天、皇、于、時
有、童、謠、曰、伊、波、能、杯、你、古、佐、屢、渠
梅、野、俱、渠、梅、多、你、母、多、礙、底、騰、裊
囉、栖、歌、麻、之、能、烏、臆、
宮、王、等、威、名、振、於、
天、下、獨、謀、僭、立、
是、月、茨、田、池、水

謂、て、童謡と、
神の御心、
還清

善惡とも、
童推の口を假りて、
諸、
○古佐、
○渠、
○歌、
○借、

十一月丙子朔、
蘇我臣入鹿遣小
德巨勢、
德太臣、
大仁土師娑婆連、
掩山背大兄王等、
於斑鳩、
或木云、
巨勢

寝、
和名抄、
衾、
衾室也、
と、
人間あり、
小、
に、
ら、
神武紀、
たり、
文、
ら、
小、
目、
多、
五、
志、
德、
飼、
舍、
而、
日、
仍、
子、
文、
諸、
太、

○日本紀標注卷之十九

○三十四

武十三年紀、田目連賜姓曰、宿祿○阿部堅經、通證小安濃郡有阿部村と注せり○淹留人經住あり○深草と和名抄小山城国紀伊郡郷名○乳部上不見也たり○戰勝之後方言丈夫哉この語いとく拙劣し戰勝て社大丈夫と云ゆ又損身固国云々も拙し身

王死、解圍退出、由是山背大兄、王等、四、五、日、間、淹留於山、不得喫飲、三輪、文屋、君、進、而、勸、曰、請、移、向、於、深草、屯倉、從茲、乘馬、詣、東國、以、乳、部、為、本、興、師、還、戰、其、勝、必、矣、山、背、大、兄、王、等、對、曰、如、卿、所、導、其、勝、必、然、但、吾、情、冀、十、年、不、役、百、姓、以、一、身、之、故、豈、煩、勞、萬、民、又、於、後、世、不、欲、民、言、由、吾、之、故、喪、己、父、母、

を棄つふこと、丈夫のふへふ云、べきやと○求、捉、繼、體、紀、不、振、奴、須、久、利、と、り、彼、処、注、せ、り、原、本、捉、を、授、不、誤、と、今、通、證、不、改、た、る、不、從、ふ、○喘、息、雜、略、不、暇、腕、を、イ、ワ、ケ、ア、ワ、テ、と、よ、多、休、え、同、語、考、ふ、べ、し、○鼠、も、入、鹿、不、喻、た、り、○起、兵、伐、入、鹿、者、云、々、年、治、云、是、と

豈其戰勝之後、方言丈夫哉、夫損身固國、不亦丈夫者歟、有人遙見上宮、王等於山中、還導蘇我、臣入鹿、入鹿聞而大懼、速發軍旅、述王所在於高向、臣國押曰、速可向山、求捉彼王、國押報曰、僕守天皇宮、不敢出外、入鹿即將自往、于時古人大兄、皇子喘息而來、問向何處、入鹿具說所由、古人皇子曰、鼠伏

俗小負をしん
と云るをのふ
項羽が兵盡
き力窮り、天
亡我、非戰之罪
と云、しど、適
優れる○定之
此語後の書
をり、見ゆ
色葉字類抄
も、鎮字をよめ
疑あし、の意
り○一時自經
俱死、扶桑略記
小殺聖徳太子
之子孫、男女廿
三人、王云々、平
氏太子傳もむ

穴^ニ而生^{イキ}、失^テ穴^ヲ而死^ス、入^リ鹿^ニ由^テ是^ニ止^ム行^フ、
遣^テ軍^ヲ將^キ等^ヲ求^ム於^テ膽^イ駒^コ、竟^ニ不^レ能^ク覓^ル於^テ
是^ニ山^ノ背^ニ、大^ノ兄^ヲ、王^ト等^ト、自^ラ山^ノ還^リ入^リ斑^ニ鳩^ニ、
寺^ニ、軍^ヲ將^キ等^ヲ即^チ以^テ兵^ヲ圍^ミ寺^ヲ、於^テ是^ニ山^ノ背^ニ、
大^ノ兄^ヲ、王^ト使^テ三^ノ輪^ヲ、文^ノ屋^ノ君^ヲ、謂^フ軍^ヲ將^キ等^ヲ、
曰^ク、吾^レ起^シ兵^ヲ伐^シ入^リ鹿^ニ者[、]其^ノ勝^ハ定^メ之[、]然^レ
由^リ一^ノ身^ノ之^レ故[、]不^レ欲^ク傷^ム殘^ニ百^ノ姓^ヲ、是^レ以^テ
吾^レ之^レ一^ノ身^ヲ、賜^フ於^テ入^リ鹿^ニ、終^ニ與^ニ子^ノ弟^ヲ、
妾^ヲ、一^ノ時^ニ自^ラ經^テ俱^ニ死^ス也[、]

ふじく、其名どもを記せて、通證し守屋亡後、蘇我氏上宮氏、亦不三世而相共夷
滅、豈不欽氏、遺毒乎と云るを、確論あり、忠臣を害し神国を穢し、神罰適れがごと
し慎ぎばべき
○五色幡蓋
云々、年治云、入
鹿も君を弑し、
国家を覆さむ
と云、罪人の
子孫あり、大兄
王も殘逆不與
し、神祇を蔑如
せし、人の子亦
殘逆の子孫
ふして、殘逆不
與したる人の
子を誅したり
とて、天何ぞ伎樂を發して憐み給ふは、是ら浮屠らが、作出たる妄説なるを、佛
ふ關ること、いへむ、卷、不信ひぬかし、撰者の心を、ちやくしく口をしりぬ、然

于^レ時^ニ五^ノ色^ノ、幡^ハ蓋^キ、種^々種^々、伎^ノ樂^ヲ、照^シ灼^ス於^テ
空^ニ、臨^ミ垂^リ於^テ寺^ニ、衆^ノ人^ト仰^テ觀^シ、稱^シ嘆^シ、遂^ニ指^シ
示^シ於^テ入^リ鹿^ニ、其^ノ幡^ハ蓋^キ等^ヲ變^ヒ爲^シ黑^ク雲^ニ、由^テ
是^レ入^リ鹿^ニ不^レ能^ク得^テ見^ル、蘇^我大^ノ臣^ト蝦^蟻、
聞^ク山^ノ背^ニ、大^ノ兄^ヲ、王^ト等^ト、摠^テ被^レ亡^ス於^テ入^リ鹿^ニ、
而^{シテ}嗔^リ罵^リ曰^ク、噫[、]入^リ鹿^ニ極^メ甚^ク愚^ク癡^ク、專^シ行^フ
暴^ク惡^ク、你^ノ之^レ身^ヲ、命^ヲ不^レ亦^ク殆^ク乎[、]

む千時五色幡以下、四十六字、宇宙無比の寶典を汚奉と、を刪去て可あらむ。○愚癡、書の堯典、父頑母嚚、源氏桐壺、へと、人日ろく、かたくなふあり。もつは云々。○林臣法王帝説、林臣太郎と記、平氏太子傳、蘇我大臣、兒、林臣入鹿と、林臣入鹿と、林てふ義を考、えず。○斑雜毛、順集、小君きつむ、赤々郭公、黒かみの、ゆ、きふあまを、我もかたらず、此詞いと稀あり、四季物語、みす、しきの服、の

時、人説前、謠之、應曰、以伊波能杯、
你而、喻上、宮、以古佐屢而、喻林、臣、
鹿也、以渠梅野、俱而、喻燒上、宮、
以渠梅拖你母、陀礙底、騰哀羅、栖、
柯麻之、之、能鳴、臆、而、喻山背、王之、
頭髮、斑雜毛、似山羊、又曰、棄捨其、
宮、匿深山、相也、是歲、百濟、太子餘、
豐、以密蜂房、四枚、放養於三輪、山、

しきりさてう
らふ、きて、そ

而終、不蕃息

とあふ、かしのおもとのよ、たてまつはど、りも、同義、○山羊和名抄、小麋、羊大、於羊、而大角者也、或作羴、和名加萬之々、新撰字鏡、狹をよみ、康頼本草、小、羚角をよめ、此獸岐曾路をよめ、東北国の深山、多り、全身黒く、或も褐、色を帯び、兩角並生じ、夜も角を木に懸て眠、と云、故、拾玉集、松がえ、枕定、むる、かもぶ、の、よ、め、仇、あ、れ、つ、ぐ、い、ほ、り、あ、此皮をニクと云、ひて、禱とす、故、小大和本草、小羚羊、セニク、とも、カモシ、とも、記し、和名抄、小禱、毛席、名也、途、久とも、り、と、む、羚羊の皮、殊、小禱、ふ、よろし、き、ゆ、る、名、つ、く、め、按、小万葉、小禱、又、種、を、カモとよめるも、此獸の裘、より、起、た、は、名、あり、初麋、羊、又、山羊、を、カモシ、に、も、り、ら、ず、の、説、り、と、ど、愛、ふ、と、云、也、○又曰、童謠を解、り、る、一説、あり、○其、宮、を、斑鳩宮、を、云、○餘、豊、下、小餘、豊、璋、小作、り、○蜜、蜂、和名、抄、小美、知、波、知、と、注、し、又、蜜、甘、飴、也、俗、云、美、知、と、れ、ど、是、を、蜜、の、字、音、ふ、て、俗、小、ミツ、バチ、とも、云、て、古、名、を、傳、す、其、甘、と、飴、小、類、と、れ、む、アマ、バチ、とも、云、ま、く、思、と、例、を、見、ず、信、濃、み、て、へ、が、と、云、古、名、あ、る、べ、し、○蕃、息、允、恭、紀、小見、を、り、

中臣鎌子連也、
欽明紀、小見也、

三年春正月乙亥朔、以中臣鎌子、

たる、鎌子の孫
みして、其祖名
を襲り、此鎌
子を、姓氏録ふ
天兒屋根命、二
十三世孫と記
し、公卿補任ふ
と、二十二世と
傳たり、即小徳
冠御氣子の長
子ふて、此鎌子
も、孝徳天皇白
雉五年、紀ふも、
鎌足連と改記
せり。○神祇伯
神代紀ふ注せり。
大臣、女、小足媛
と、孝徳紀ふ見

連、拜神祇伯、再三固辭不就、稱疾、
退居三嶋、于時輕皇子患脚不朝、
中臣鎌子連、曾善於輕皇子、故詣、
彼宮而將侍宿、輕皇子深識中臣
鎌子連之意氣高逸、容止難犯、乃
使寵妃阿陪氏、淨掃別殿、高鋪新
蓐、靡不具給、敬重特異、
○輕皇子も、後小孝徳天皇と申、
○妃阿陪氏も、阿陪倉務麻呂
の繼體紀ふ見をたり、
○三嶋も、攝津国の郡名ふて、此地のこと
中臣鎌子連、便感所遇而、語舍人

ゆ、○感、万葉十
六、大欲寸九
兒等哉、故間毛
而將居、○法興
寺、崇峻紀ふ見
とたり、○打毬
新撰字鏡ふ、踏
万利古由、和名
抄ふ、蹴鞠、以足
逆踏也、末利古
由、打毬、萬利古
知とり、クエ
マリも、蹴鞠の
延語ふて、マリ
コユも、鞠クエ
の轉じれるよ
や、○黄卷、瑯琊
代醉、縮子、古人

曰、殊奉恩澤、過前所望、誰能不使
王天下耶、謂充舍人、舍人便以所
語陳於皇子、皇子大悦、中臣鎌子
連、爲久惠正、有匡濟心、乃憤蘇我
臣入鹿、失君臣長幼之序、挾關
社稷之權、歷試接王宗之中、而求
可立功名、哲主、便附心於中、大兄
疏然未獲展其幽抱、偶預中大兄
於法興寺、槻樹之下、打毬之侶、而

寫書皆用黃紙
以藥滌之、所以
辟蠹也、故名書
曰黃卷○周孔
也、周公孔子を
云、○南淵先生
按、南淵先生姓
み、姓氏録み
洩されど、公卿
補任淳和天皇、
條、南淵朝臣弘
貞、傳み、弘仁十
四年十二月、改
仲、王之後、と
ナ、フチオカナン
稻淵村、今稱明
也、南淵村の轉
とむ論、ふた

候ニ皮鞋隨レ趨脱落、取置掌中、前跪
恭奉、中大兄對跪、敬執、自茲相善、
俱述所懷、既無所匿、復恐他嫌、頓
接、而俱手把黃卷、自學周孔之教、
於南淵先生所、遂於路上往還之
間、並肩潛圖、無不相協、
四年十二月、改
仲、王之後、と
ナ、フチオカナン
稻淵村、今稱明
也、南淵村の轉
とむ論、ふた

別、あれちや○
蕪我倉山田麻
呂、原本山倉田
不誤とむ改、
つ、然も孝徳紀
不、蕪我倉山田
麻呂とも、倉山
田石川麻呂と
も云て、おまじ
人あり、公卿補
任、山田大臣、
馬子大臣之孫、
雄正子臣之子
也、と、何、即蝦
夷の姪ふして、
入鹿とも従父
兄弟あり○婚
姻も、新撰字鏡

於是中臣、鎌子、連、議曰、謀大事者
不知有輔、請納蕪我倉山田麻呂
長女、爲妃、而成婚姻之昵、然後陳
說、欲與計事、成功之路、莫近於茲、
中大兄聞而大悦、曲從所議、中臣、
鎌子、連、即自往、媒要訖、而長女所、
期之夜、被偷於族、
山田臣、憂惶、仰卧、不知所爲、少女
恠父、憂惶、就而問曰、憂惶何也、父

不婚婦人之父、志比止、和名抄、夫之父曰舅、之字止と注せ、即シヒトの轉、夫の兄弟を古之字止、姉妹と古之字止、女と注し、今も然、婚姻も爾雅、婦之父、母、婿之父、母、相謂為婚姻とあり、此字を用む、コシヒトとよめるも、解不、對、下人の意、ハヤ、○媒、要、原本、媒を謀、不作、今、秋紀、不、從、○長女も、兄、女、あ、れ、む、上、も、見、て、名、を、ら、ず、○細字、子、族、謂、身、狹、臣、也、の、六、字、も、例、不、違、と、ど、姑、原、本、不、從、ふ、孝、德、紀、不、蘇、我、臣、日、向、と、あり、て、細、字、子、日、向、字、身、刺、と、記、し、法、王、帝、說、不、曾、我、日、向、子、臣、字、無、邪、志、臣、不、作、と、り、○葛、木、稚、犬、養、連、の、葛、木、も、居、所、不、て、姓、氏、録、不、若、犬、養、宿、祿、火、明、命、十、六、世、孫、尾、細、根、命、之、後、也、と、あり、天、武、十、三、年、紀、不、稚、犬、養、連、賜、姓、曰、宿、祿、○云、と、集、解、不、轉、寫、之、人、省、功、不、載、遂、缺、其、文、以、下、往、々、有、之、と、あり、

陳其由、少女曰、願勿為憂、以我奉進、亦復不晚、父便大悦、遂進其女、奉以赤心、夏無所忌、中臣鎌子連、舉佐伯連子麻呂、葛木稚犬養連、網田於中、大兄曰云云

休留、和名抄、鶺鴒鳥、漢語抄、云、以、比、止、與、と、注、し、新、撰、字、鏡、不、賜、又、鶺、鴒、を、よ、め、て、是、を、鶺、鴒、と、云、鳥、あり、○細、字、不、休、留、茅、鶺、也、と、あり、天、武、紀、不、伊、勢、國、貢、白、茅、鶺、と、あり、不、よ、り、て、後、人、の、加、と、見、ゆ、と、ど、姑、原、本、不、從、ふ、○豐、浦、大、臣、も、蘇、我、蝦、夷、を、云、て、○大、津、宅、式、不、

三月、休留、產子於豐浦、大臣、大津宅、倉、倭、國、言、頃、者、菟田、郡、人、押坂直、將一童子、欣遊雪、上、登菟田、山、便見紫、菌、挺、雪、而、生、高、六寸餘、滿四町、許、乃使童子、採取、還示隣、家、摠言、不知、且疑、毒物、於是、押坂、直、與、童子、煮、而、食、之、大、有、氣、味、明、日、往、見、都、不、在、焉、押坂、直、與、童子、因、喫、菌、羹、無、病、而、壽、或、人、

河内国河内郡
同丹南郡等不

云蓋俗不知芝草而妄言菌耶

大津神社見ゆ○押坂直、姓氏録不、忍坂連、火明命之後と有り、此氏人天武紀不、忍坂直大麻呂、續紀廿八不、婢清賣、賜姓忍坂と、有り外史不見をす○都を總ての意不、下不、棄捨珍財、都無所益、万葉四不、娘、子部四咲澤、二生流、花勝見、都毛不知、戀裳、招可聞○芝草天武紀不、紀伊国伊刀郡貢芝草、其狀似菌、莖長一尺、其蓋二圍、續後紀四不、右大臣清原真人夏野獻芝草一莖、有兩枝者、一枝長一尺六寸、一枝長一尺、其色紫緋相雜、每莖之末有菌而產于大臣山莊、双岳之下、是日賜酒、侍臣以賀、祥芝文德實錄三不、駿河国獻瑞草紫葉朱莖、或謂之芝、日本紀略天長四年八月、條不、正五位下大枝朝臣總成獻芝草四株、其中大者長二尺許、其為狀也、紫丹色、本一而末二枝、往々有節節、間一寸許、撓曲不直、最末差白、總成曰、典侍繼子、女主禁中宿處板敷、下生云々、治部式下瑞不、芝草、形似珊瑚、枝葉連結、或丹或紫、或黑或金色、或隨四時變色、一云一年三華、食之令眉壽と有り、續紀九不、見色乃る、玉來ふらむ、玉來不、靈芝不、食ふ不、堪ざるものあり、史記封禪書不、甘泉房中生芝九莖、唐書五行志不、李嘉胤屋柱生芝草、狀如天尊像云々、如此種々見色たるもの、一物あり、とも聞色ず、甚おがつつあきものあり、此芝を本草綱目の訓注不、比知里多介と記せは、不、聖草を誤たるもや、其宋書符瑞志、子芝草、王者慈仁、則生、食之令人度世と、有りを思ひて、賢良不、名づけたる

ふめり○百合
華、和名抄子、百
合、由利と有り、
て、人の知るも
のあり、莖長八
尺云々も、異ふ
るを記せ、○
乙巳三日○志
紀と大和国の
郡名不、和名
抄子、城上之岐
乃加美と注せ
る、即磯城上を
略し、今式上
と書り、○合
眼と、眼を開る
を云、ヒシクと
も、閉塞意ふや、

夏六月癸卯朔大伴馬飼連獻百
合華其莖長八尺其本異而末連
乙巳志紀上郡言有入於三輪山
見猿晝睡竊執其臂不害其身猿
猶合眼歌曰武舸都烏爾陀底屢
制羅我佞古禰舉曾倭我底鳴騰
羅每拖我佐基泥基佐泥曾母野
倭我底騰羅須謀野其人驚恠猿
歌放捨而去此是經歷數年上宮

源氏繪角子、むぬもむしりて、**王等、爲蘇我鞍作、圍於膽駒山之**

おほゆとりる **兆也**

またる心あり、と注せ、袂衣ニ、むぬひしけたるやうにて、つとおおつうふ
う云々 ○武都都烏爾も、向峯にて、膽駒山を云、万葉七、向峯之櫻花毛、同十四
子、牟可都乎能、四比乃故夜提能、云々、此方より向、不見ゆる、丘を云 ○陀底屢制
羅我も、通證、立夫等也、と云、又、夫とて、大兄王を指、○你古祿舉曾も、逃來ぬ子
て、舉曾も社あり、我兄の逃て來たれむ社と云、是を通過證、柔根と云、とど、古
を濁音不用たる例なきや ○倭我底鳴騰羅每も、我手を捉、との延語にて、我
とて大兄王の上を云、○拖我佐基泥も、誰が前、進み出た、と問意、○基
佐泥曾母野の、基佐、佐基をかへさぬ誤り、と契沖が云、る、子從ふ、へし、此
と打返して、曾と問、掛け、母野の助辞を添、た、次あるもおあじ ○倭我底騰羅
須謀野も、我手捉も延、た、○經歷數年云々、按、此、怪、甚、甚、早く、つ、し、趣、小
記、せ、れ、と、歌、の、う、へ、を、思、ふ、ふ、然、も、聞、こ、ず、あ、む、ま、り、は、不、通、證、不、言、上、時、記、之
と云、る、も、一、耳、を、然、と、お、と、ど、記、録、や、う、の、書、あ、ら、む、と、そ、前、後、も、つ、め、れ、後、不
順序を推、て、撰、び、れ、る、ふ、を、甚、
混、ら、も、し、き、書、法、あ、ら、む、や

戊申六日 ○劔池、舒明紀不見

とた、○蘇我臣將榮之瑞、按

ふ双頭蓮を、不祥の兆あるこ

と、其例どもを聚て、国典字徴

ふ記しか、よつ ○將榮原本將

來、ふ作、ま、つ、今、釈、紀、ふ、批、る、○

金墨を、金泥を、○巫覡を、神

慮を、和むる意、おれ、バ、神和君、あ、れ、べ、し、日本靈異記、ト、者、を、可、三、那、支、と、注、し、

新撰字鏡、ふ、娘、を、加、牟、奈、支、と、注、せ、り、和、名、抄、子、巫、祝、女、也、加、牟、奈、岐、覡、男、祝、也、乎、
乃、古、加、牟、奈、岐、と、注、せ、と、其、義、訓、ふ、て、大、須、本、子、波、布、利、と、り、る、ぞ、九、バ、し、き、
此、巫、祝、を、同、書、乞、盜、類、ふ、載、た、る、を、支、那、風、小、説、に、る、あり、○枝葉を、榮、ふ、て、繁、葉

戊申、於劔池蓮、中、有一莖二萼者、
豐浦大臣妄推曰、是蘇我臣將榮
之瑞也、即以金墨書而獻大法興
寺、丈六佛、是月國內巫覡等、折取
枝葉懸掛木、懸伺大臣度橋之時、
爭陳神語入、微之說、其巫甚多不
可具聽、老人等曰、移風之兆也

て、推古紀不佛
像、居萬野、秦寺
と、りる地、續
紀卅八、山背
國葛野郡人、秦
忌寸足長三代
寶錄七、山城
國葛野郡、秦忌
寸春風、同四十
八、山城國葛
野郡人、秦忌寸
氏立、まど見を
たるを、河勝の
子孫、おれべし

大生部多、其巫覡等恐、休其勸祭
時、人便作歌曰、禹都麻佐波、柯微
騰母柯微騰、枳舉曳俱屢騰、舉預
能柯微乎、宇智岐多麻須母、此虫
者常生橘樹、或生於罽枌、罽枌、此
紀其長四寸餘、其大如頭指許、其
色綠而有黑點、其貌全似養蠶

○禹都麻佐波、太秦者之、上代秦も太秦も相通とし云、山城志同郡、太秦村あり、○柯微騰母柯微騰、神とも神とも、神の中にも尊しと之、○枳舉曳俱屢騰、所聞來、ふて、次句ニ條て見るべし、○騰舉預能柯微乎、常世神を、○宇智岐多麻須母も、打罰の延語、ふて、續紀四十、任法、爾問賜比、文多、米賜、倍久

云々、○罽枌、新撰字鏡、保曾支と注し、又椒の一字をもよみ、和名抄本草和名、醫心方等、保曾岐とも、以多知波之加美とも注せ、此木詳ならず、本草綱目、蔓椒、野生、林箐間、枝軟如蔓、子葉皆似椒、山人亦食之と記せ、醫心方本草和名等、山菜、蔓を、以多知波之加三とよめ、とど、山菜、蔓も亦詳ならず、大和本草、山菜、蔓を、ナハシロクとよめ、とむ、蔓椒、ふも、りら、ず、齋宮式、椒、椒油、四斗、四升と有、通證、小犬山椒也と云、猶考ふべし、蔓椒、古も罽枌、不作と、甘藷、里も、允恭紀、ふ見、を、たり

臣、雙起家於甘藷、罽、稱大臣、家曰宮門、入鹿、家曰谷宮門、男女曰王子、家外作城柵、門傍作兵庫、每門置盛水、舟一、木、鉤數十、以備火災、恒使力人持兵守家

○古語拾遺、祭宮門、其祝詞、亦在於別卷、つる別卷、祝詞式、ふて、彼、みも、御門祭と、つるを見るべし、○谷宮門、上

小滑谷崗とも見也、即挾間ふて、武烈紀ふ、乃樂能婆娑摩とらるも、平城之谷ふ
 〇王子此紀ふ、一世の御子を皇子皇女と稱し、二世以下を王と稱せしむ、蘇
 我氏の楷称見はべし、〇城柵、續紀一ふ、令越後国修理石船柵、同廿七ふ、造桃生
 城小勝柵、云々、字書ふ柵、堅木以立柵とらるむ、城ふ對て、仮城ありと知る、
 〇兵庫、和名抄ふ、櫓、城上守禦、樓、夜、久良とらる、矢庫の義、〇水舟を俗子用水
 桶と云、るものあり、〇木鉤も、今熊手と云、る如き物を、木以て作らしむや
 長直、姓氏録ふ、
 大奈牟智神兒、
 積羽八重事代
 主命之後也、氏
 人も、續紀卅二
 〇阿波国勝浦
 郡領長直人立
 ありと云、人見ゆ
 〇大丹穂山、三
 代實録三十三
 〇授大和国无
 位大仁保神、從
 入、名、健、人、曰、東、方、儂、從、者、氏、氏、人
 起、庫、儲、箭、恒、將、五、十、兵、士、繞、身、出
 寺、夏、起、家、於、畝、傍、山、東、穿、池、爲、城
 大臣使長直於大丹穂山造梓削
 等入侍其門名曰祖子孺者漢直
 等全侍二門

五位下、志ふ、在高市郡入谷村、今稱春日、〇梓削寺、大和志高市郡、條ふ、梓削寺在
 丹生谷村、今廢、〇庫、和名抄ふ、豆波毛、乃久良と注せ、今一ふ、ヤグラと、らる
 小よるべし、〇健人、垂仁紀ふ、カ士をよみ、上小健兒をよめ、〇東方儂從者、集
 解ふ、以畝傍山之東、故曰東方と云、〇儂從者、安閑紀ふ、儂、豎とらる、後取部あり、
 文選吳都賦ふ、儂從夾夾、呂向が儂者、所以導引於前、從者侍從於後、〇氏、氏人、
 諸氏の人を云、〇祖子孺、万葉十八ふ、伊爾之儂欲、伊麻乃乎、追通爾、奈我佐儂流
 於夜能子等毛曾、〇二門
 〇官門と谷宮門とあり

官寺も、官より
 作る寺を云、此
 官を活板小宮
 小作とらり、〇嘯
 〇新撰、字鏡ふ、
 宇曾牟久と注
 せ、〇移京於
 難波、孝徳天
 皇大化元年、紀
 〇見、正、たり、
 四年春正月、或於阜嶺、或於河邊、
 或於官寺之間、遙見有物而聽猿
 吟、或一十許、或二十許、就而視之、
 物便不見、尚聞鳴嘯之響、不能獲
 觀其身、
 〇日本紀標注卷之十九
 〇四十六

板蓋宮、上ニ注
せテ○伊勢大

人、曰、此是伊勢大神之使也ミツカヒナリ

神之使、景行紀ニ、大蛇オホノビ必荒神之使也、日本後紀八ニ、有久來オホキミ孫八幡神ヤマト
使シ、多ク、後世ノ、熊野烏クマノ八幡ノ、鳩トビ日吉ノ、猿サル多ク、を、神使ニと云フ、倣フ、
取其術、神代紀ニ、
久ク、居ル、海原ノ、必ズ、
有ル、善キ、術ヲ、欽ミ、明メ、紀ニ、
何レ、術ヲ、用フ、鏡ヲ、國ニ、
家ニ、天武紀ニ、有ル、
和カ、國家ニ、寬ク、百姓ニ、
之ノ、術ヲ、多ク、多ク、
案ニ、ふシ、化ス、字ヲ、
俗ニ、ふシ、バケ、とモ、
バカ、スト、もよ、
のト、むシ、其ノ、意ヲ、
やク、考ム、ふシ、べシ、初メ、
虎ノ、をシ、馴シ、しム、
るコ、とモ、支那、

夏四月戊戌朔、高麗學問僧等言、

同學トモ鞍作イサナ得志トクシ、以テ虎ヲ為シ友トシ、學ニ取リ其ノ

術ヲ、或ハ使シ枯山カラヤマ變カヘテ為シ青山アヲヤマ、或ハ使シ黃地ワウヂ

變カヘテ為シ白水ハクスイ、種タネ々々、奇術キジュツ不可レ殫ツシ究キム、又

虎授ヲ其ノ針ハリ、曰ク、慎ユメ矣ニ、慎ユメ矣ニ、勿レ令コト人ニ知ル、

以テ此ヲ治ム之ヲ、病ヲ無レ不レ愈ユ、果テ如シ所ノ言フ、治ム

無レ不レ差サ、得志トクシ恒ニ以テ其ノ針ハリ、隱カクレ置ケリ柱ノ中ニ、

於後虎折其柱、取針走去、高麗國

知得志欲歸之意、與毒殺之

書キ、例ノ、
使シ、黃ノ、地ノ、變ハ、為シ、白ク、
水ニ、ふシ、とモ、雄ノ、略ヲ、
紀ニ、文ヲ、石ヲ、小ノ、麻ヲ、呂ヲ、
のト、処ニ、注シ、せシ、はシ、
みト、ふシ、ふシ、おシ、
截シ、馬ノ、之ノ、術ヲ、皆ク、是レ、也ト、
らキ、とモ、併シ、見ル、べシ、
甲辰八日○戊
申十二日○大
極殿、和名抄ニ、
大極殿、朝堂院、
正殿、名也、拾芥、
抄ニ、八ノ、省ノ、院ノ、天、
子臨朝即位、諸、
司告朔所、又曰、
大極殿、朝堂院、
正殿、名とら、

六月丁酉朔甲辰、中大兄密謂倉

山田麻呂、臣曰、三韓進調之日、必

將使シ卿ヲ讀ム唱ス其ノ表ヲ、遂ニ陳シ欲ス斬ル入ル鹿ノ

之謀、麻呂、臣奉許焉、戊申、天皇御

大極殿、朝堂院、古人、大兄侍焉、中臣鎌子、

舊讀オホアン
トノと点たる
と、大安殿あり
べし、天下を安
御し給ふ殿ま
とむ、オホヤス
ミドノとよむ
べし○俳優神
代紀ハワザキとよめ、爰ハワザビトとよめは、ミドモオ人の略あり○
方便、谷川氏ハ俗ハ人とならうすを、たむりると云、此意より轉じたるあり
と云、是を佛語とのみ聞つれど、齊書王侯傳、南史褚裕之傳、等ハ見
るなり、是を俳優の方便して、劍を解しめりん、詳ありず
衛門府ハ職員
令ハ、衛門府督
一人、掌諸門、禁
衛出入、禮儀、以
時巡檢、及隼人
門籍、門勝、事、和

連、知^テ蘇我、入鹿、臣、爲^リ入^ト多^ク疑^ル晝^ニ夜^ニ
持^テ劍^ヲ而、教^テ俳優^ヲ方便^ニ令^テ解^ル、入鹿、臣、
咲^テ而解^レ劍、入^リ侍^ニ于座^ニ、倉山、田麻呂、
臣進^テ而、讀^ニ唱^ニ三^ニ韓表^ニ文^ヲ
於是中、大兄、戒^テ衛門府、一時俱^ニ鎖^ニ
十二通門、勿^ク使^テ往^テ來^ス、召^ニ聚^ニ衛門府^ニ
於一所、將^テ給^ル祿^ヲ、時中、大兄、即^チ自^ラ執^テ

名抄ハ、衛門府、
由介比乃豆加
佐とり、即鞞
負、司ふて、衛門
武官ありとむ
如此称せり○
十二通門、拾芥
抄ハ、陽明侍賢
郁芳の三門を
東面、美福、朱雀
皇嘉の三門を南面、談天、藻壁、殿富の三門を西面、安嘉、偉鑿、達智の三門を北面
と記せり○於一所將給祿も、非常の用意あり○中大兄、原本大、中、誤とり○
長槍、和名抄ハ、長刀を、奈加太、避と注せるも別物あり、本朝世記、久安二年三月
九日、條ハ、雷声、殷々、經光、驚執、兵仗、細字ハ、俗号之、奈木、奈多、愚味、記、久安二年七
月十一日、河人、成俊、等、申詞、記、奈岐、刀、乃、柄、云々、案ハ、以上ナギナタ也、今世ハ在
るものとおふじりむべし、蓋長槍を原ハして作て出たりと見ゆ、長刀を鞞ハ
くして、長五尺許の物ありと、貞丈雜記ハ記せり○海犬養連也、姓氏録ハ、海犬
養、海神綿積命之後也、天武十三年、紀ハ、海犬養連、賜姓曰宿禰、この氏、人、史ハ、海

長^{ナガ}槍^{ホコラ}、隱^ス於^ニ殿^ニ側^ニ、中^ニ臣^ニ、鎌^ニ子^ニ連^ニ等^ニ、持^テ
弓^ヲ矢^ヲ而爲^ス助^マ衛^ル、使^テ海^ニ、犬^ニ養^ニ、連^ニ勝^ニ、麻^ニ
呂^ヲ、投^テ箱^ヲ中^ニ、兩^ニ劍^ニ、於^ニ佐^ニ伯^ニ、連^ニ子^ニ麻^ニ呂^ニ、
與^ニ葛^ニ城^ニ、稚^ニ犬^ニ養^ニ、連^ニ網^ニ田^ニ、曰^ク努^ク力^ク努^ク
力^メ急^ニ須^ニ應^ニ斬^ル

とたり ○努力、万葉不動又謹をよみ、飯名ふえ
由米、又湯目と書き、上小慎矣と有り、おふじ

送飯源氏燃角
小、松のえをす
ま、つとむる
山伏だに云々、
同若紫ふ、さる
べきもの作？
て、すうせ奉る、
抄小食ありと

注せ？ ○反吐
和名抄ふ、歐吐
倍吐都久、又太
萬比、又宮、犬吐
也、以奴乃太末
比と有り、西国
の戦と同訓ふて、
便旋も、徘徊の
延たるあり ○

子麻呂等、以水送飯、恐而反吐、中

臣、鎌子、連噴而使勵、倉山田麻呂、

臣、恐唱表文將盡、而子麻呂等不

來、流汗沃身、亂聲動手、鞍作臣恠

而問曰、何故掉戰、山田麻呂對曰、

恐近天皇、不覺流汗

中、大兄、見子麻呂等、畏入鹿、威、便

旋不進、曰、吐嗟、即共子麻呂等、出

其、不意、以劍傷割入鹿頭、肩入鹿

驚起、子麻呂運手、揮劍、傷其一脚、

入鹿轉就御座、叩頭曰、當居嗣位

天之子也、臣不知罪、乞垂審察

吐嗟、日本靈異
記、吐、夜の
注、り、吐、吐
み通、し、書け
、後拾遺集、
思ひ出ること
も、り、ら、じ、と、見
色、つ、れ、ど、や、と
い、ふ、み、こ、そ、お
ど、ろ、う、れ、ぬ、と、
新續古今集、
此、ヤ、小、引、声、を、
語、書、み、お、む、く、
子、も、大、津、神、の、
伎、良、米、多、麻、比、
天、宗、通、證、不、
天、皇、之、宗、家、也、

梓弓引もとむべき、別名ぢを、やといひしふも、かいらざるらむ、
加て、マアで云、べよ例、音韻啓蒙、不記しつ、○不意、此語、此紀、及、物
見、色、たり、○揮劍、神代紀、不、抜劍、背、揮、と、り、み、注、し、つ、○天、之、
次、小、天、孫、と、り、も、あ、る、じ、○垂審察、天、武、紀、不、天、神、地、
云、々、明、小、察、た、ま、く、あ、り、

と云て○日位
とヒツギとよ
めるも天津日
嗣のこと○鞍
作、下ふ、蘇我臣
入鹿更名鞍作
の注わて、後人
の携入るは、
削る元年、紀ふ
入鹿更名鞍作
と云る○潦水
安閑紀ふ水潦
をよめ○帝
障子此語甚め
づらし、案ふ障
子も襖障子ふ
て、上代も帝ふどを懸て、隔とし、をりむ、金葉集ふ、逢こととふ、がめふは、やの、
板むとみ、さす、がふかけて、年のへぬらむ○私官、古今ふキサイノミヤと云る

有^{スル}何^カ事^カ耶、中、大兄^テ伏^ツ地^ニ奏^{シテ}曰、鞍作
盡^ニ滅^ニ天^{ミカド}宗^ヲ、將^レ傾^ニ日^{ヒツギ}位^ヲ、豈^ニ以^テ天^{アメ}孫^{ミコ}代^{カハ}
鞍^ニ作^ニ耶、天皇^ニ即^テ起^テ入^リ於^テ殿^ニ、中、佐伯、
連^ニ子^ニ麻呂、稚犬^ニ養、連^ニ網田、斬^ニ入^リ鹿、
臣^ヲ、是^レ日^ニ雨^{フリ}下^リ潦^{イサ}水^{ミヅ}溢^レ庭^ニ、以^テ席^{ハシロ}障^{シト}子^ミ
覆^ニ鞍^ニ作^ニ屍^{カシラ}、古^ノ人^ノ大兄^ノ見^テ走^リ入^リ私^{キサイ}宮^ニ
謂^ニ於^テ人^ニ曰、韓^ノ人^ノ殺^シ鞍^ニ作^ニ、臣^ヲ、吾^ノ心^ニ痛^ム
矣、即^ニ入^リ臥^{ヨド}内^ノ杜^{サシテ}門^ヲ、不^レ出^ル

後漢書百官志、中官私府令、○韓人殺鞍作臣、按、古人大兄皇子も、入鹿
と云る、○吾心痛、万葉八、黄葉家良思、吾情痛之、是、を真、悲痛せしを、韓人の業、混
作之、加多、米等
之、○巨勢、德、陀
臣、も、上、小、德、太
小、作、と、り、○天
地、開、闢、君、臣、始
有、云、々、日、本、後
紀、八、和、氣、清、麻
呂、傳、の、神、託、み、
我、國、家、開、闢、以
來、君、臣、定、矣、以
臣、為、君、未、之、有
也、天、之、日、嗣、必

後、漢、書、百、官、志、に、中、官、私、府、令、に、韓、人、殺、鞍、作、臣、と、有、り、按、古、人、大、兄、皇、子、も、入、鹿
と、云、ふ、○、吾、心、痛、万、葉、八、に、黄、葉、家、良、思、吾、情、痛、之、と、有、り、是、を、真、に、悲、痛、せ、し、を、韓、人、の、業、に、混
じ、り、て、作、之、と、云、ふ、加、多、米、等、と、云、ふ、○、巨、勢、德、陀、と、云、ふ、臣、も、上、小、德、太、と、云、ふ、小、作、と、り、と、云、ふ、天
地、開、闢、君、臣、始、有、と、云、ふ、云、々、日、本、後、紀、八、に、和、氣、清、麻、呂、傳、の、神、託、に、我、國、家、開、闢、以、來、君、臣、定、矣、と、有、り、
臣、を、君、と、す、未、だ、之、を、有、ら、ず、と、云、ふ、天、之、日、嗣、必、と、云、ふ、

立皇緒云々○君太郎を八鹿の字ふて、林太郎と云しこと、上の林臣、下み注せ給が如し、平氏太子傳み、蘇我臣入鹿時、人称太郎とつて○決矣、上み定字をよめり○已酉十三日○国記、推古紀み見よたり○船史、惠尺、續紀一、僧道昭傳み、俗姓船連父、惠釋しり○哭

關、君臣始有說於賊黨、令知所起、於是高向、臣國押、謂漢直等曰、吾等由君太郎、應當被戮、大臣亦於今日明日、立俟其誅、決矣、然則爲誰空戰、盡被刑乎、言畢、解劍投弓、捨此而去、賊徒亦隨散走、已酉、蘇我臣蝦蟇等、臨誅、悉燒天皇記、國記、珍寶、船史、惠尺、即疾取所燒國記、而奉中、大兄、是日、蘇我臣蝦蟇、

泣、天武紀、み發哀を子ツカフとよみ、齊明紀、悲哭、欽明紀、奉哀を、ミ子タテマツルとよめり、子とて声み立て泣くとみ、万葉三、哭者泣友、同十九、み、啼、尔之、毛將、哭、同九、み、泣、取、ハ、將、哭、み、ど、併、見、る、べし、ツカヘ、七、辞、ま、○庚戌、十四、日、○讓、位、於、輕、皇子、是、皇、國

及鞍作、屍、許葬於墓、復許哭泣於、是、或人說、第一、謠歌曰、其歌、所謂、波魯波魯、伶、渠、騰、曾、枳、舉、喻、屢、之、麻、能、野、夫、播、羅、此、即、宮、殿、接、起、於、鳴、大、臣、家、而、中、大、兄、與、中、臣、鎌、子、連、密、圖、大、義、謀、戮、入、鹿、之、兆、也、說、第二、謠歌曰、其歌、所謂、烏、智、可、拖、能、阿、婆、努、能、枳、枳、始、騰、余、謀、佐、儒、倭、例、播、祢、始、柯、騰、比、騰、曾、騰、余、謀、

ふて讓位の
はじめたるを、此
天皇再祚を踐
跡ふも、由り
りむ

須、此即上宮、王等、性順、都無有罪、

而為入鹿、見害、雖不自報、天使人

誅之、兆也、說第三、謠歌曰、其歌所

謂、烏磨野、始、倭例、烏比岐、以例

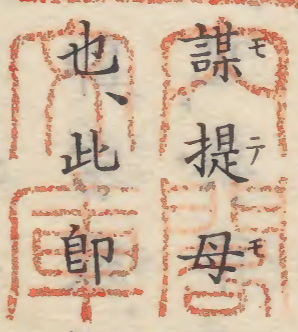
底、制、始、比、騰、能、於、謀、提、母、始、羅、孺、

伊、弊、母、始、羅、孺、母、也、此、即、入、鹿、臣、

忽、於、宮、中、為、佐、伯、連、子、麻、呂、稚、犬、

養、連、網、田、所、斬、之、兆、也、庚、戌、讓、位、

於、輕、皇、子、立、中、大、兄、為、皇、太、子、



天保十一年六月

